



G·SYSTEM

INTEGRATED EFFECTS & MANAGEMENT



ユーザーマニュアル
日本語

重要 - 安全のために



正三角形に括られた矢印付きの落雷マークは、人体に対して電気ショックを与えうる、危険な高電圧の絶縁されていない部品が本体内部に配置されていることを示します。



正三角形に括られた「！」サインは、本体の使用上、あるいはサービス／メンテナンス上で、重要な情報が製品に同梱の書類に含まれていることを示します。

- 1 必ずお読みください。
- 2 この書類は手の届くところに保管してください。
- 3 全ての警告をお守りください。
- 4 全ての指示に従ってください。
- 5 本機を水気の近くで使用しないでください。
- 6 本体の手入れは、乾いた布で乾拭きしてください。
- 7 通風に必要となる本体の開口部は塞がないでください。本体の設置は、製造者の指示に従ってください。
- 8 ラジエーター、ヒート・レジスター、暖房機具、音響用アンプリファイア等、またそれに限定されないあらゆる熱を発する機器の近くに設置しないでください。
- 9 極性プラグ、あるいは接地プラグの安全機構に手を加えないでください。極性プラグは、二つの金属ブレードの内、片側が大きく設計されています。
接地プラグは、二つの金属ブレードに加えてアース用のピンがございます。これらは、安全のための機構です。付属のプラグがコンセントの形状に合わない場合は、最寄りの電気工事業者までご相談ください。
- 10 電源ケーブルとプラグは、踏み付けられたりはさまれたりしない様に設置してください。特に、プラグとコンセント、そして本体と電源ケーブルが接続される周りにはご注意ください。
- 11 本機に設置するアクセサリや装着器具は、製造者指定のもののみをご使用ください。
- 12  カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルは製造者が指定するもののみを使用してください。カートを使用した移動の際には、カートと荷物の組み合わせと荷物の落下による事故にご注意ください。
- 13 落雷を伴う天候の場合、あるいは本機を長期間使用されない場合は、本機の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 14 本体の点検・修理が必要となった場合は、必ず認定技術者までご連絡ください。付属の電源ケーブルやプラグが破損した、液体を本体にこぼした、雨や過度の湿度にさらした、本体シャーシ内に異物が入ってしまった、本体の動作異常が生じた、本体を落としたなど、原因に関わらず本機に破損が生じた場合はサービスが必要です。

警告！

- 本体に水が垂れたり跳ねる環境での保管・使用は避け、花瓶等液体の入った物を本体の上に置かないでください。電気ショック、あるいは火事等の恐れがあります。
- 必ずアースを正しく接続してください。
- 製品に同梱されているのと同様の、アース付3芯の電源ケーブルを使用してください。
- 適切な電源ケーブルとプラグ形状・動作電圧は地域によって異なります。
- 以下の表に従い、各地域の規格に準拠した電源ケーブルを使用してください。

Voltage	Line plug according to standard
110-125V	UL817 and CSA C22.2 no 42.
220-230V	CEE 7 page VII, SR section 107-2-D1/IEC 83 page C4.
240V	BS 1363 of 1984. Specification for 13A fused plugs and switched and unswitched socket outlets.

- 本機は、電源ケーブルの抜き差しが容易に行える、コンセントの近くに設置してください。
- 主電源から完全に絶縁するには、電源コードをコンセントから外してください。
- パワーサプライの主電源プラグは容易に操作できる様にしてください。
- 閉じられた空間に設置しないでください。
- 本体を開けないでください。人体に対して有害な高電圧の電気ショックの恐れがあります。

注意

本マニュアルに明示されていない本体への変更・改造を行った場合、本機器を操作する権利を失うことがあります。

サービスについて

- 本体内にユーザ保守可能なパーツはございません。
- サービスが必要となった場合は、必ず認定の技術者までご連絡ください。

海外準拠規格に基づく記載

EMC/EMI

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B Digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules.

These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in residential installations. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on. The user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

For Customers in Canada:

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

Certificate of Conformity

TC Electronic A/S, Sindalsvej 34, 8240 Risskov, Denmark, hereby declares on own responsibility that the following product:

G-System – Guitar Effects Processor, Loop System and MIDI controller

that is covered by this certificate and marked with CE-label conforms with following standards:

EN 60065 (IEC 60065)	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use
EN 55103-1	Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 1: Emission.
EN 55103-2	Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 2: Immunity.

With reference to regulations in following directives:

73/23/EEC, 89/336/EEC

Issued in Risskov, June 2005
Mads Peter Lübeck
Chief Executive Officer

イントロダクション

重要 – 安全のために	a
海外準拠規格に基づく記載	b
目次	3
はじめに	5
クイック・セットアップ・ガイド	8
メニュー構成	13

各部の名称と機能

コントロールボード – トップ	14
コントロールボード – リア	18
GFX01 – フロント	18
G-System をペダル用フライトケースにマウントする場合	19
GFX01 – リアパネル	20

セットアップ例

アンプ・タイプ概要	22
コンパクト・ペダル + アンプ	23
コンパクト・ペダル + プリアンプ + アンプ	24
コンパクト・ペダル + アンプ・ヘッド	25
複数台のアンプを使用した 3 ウェイ構成	26
デュアル・アンプ	27
GFX01 をラックに収納する場合	28
備考	29

基本操作

PLAY モード

概要	30
プリセットとは	30
プリセットのリコール（呼び出し）	30
プリセットのエディット（編集）	31

EDIT モード

エフェクト・タイプの選択	31
--------------	----

プリセット・バンドル・モード

STORE - ストア（保存）	32
DELETE - デリート（削除）	33
プリセット間のエフェクトのコピー	33

MENU モード

概要図	34
-----	----

ROUTING - ルーティング・メニュー

SERIAL - シリアル（直列）	35
SEMI-PARALLEL - セミパラレル	35
PARALLEL - パラレル（並列）	36
ROUTING LOCK - ルーティング・ロック	37
INPUT SELECT - インプット・セレクト	37

LEVELS - レベル・メニュー

レベルの設定	38
レベル・メニュー（パラメーター一覧）	38
BOOST - ブースト機能	39

PEDALS - ペダル・メニュー

エクスプレッション・ペダルの用途	40
ペダルの接続	40
ペダルの設定（パラメーター一覧）	41
エクスプレッション・ペダルのキャリブレーション	42
エクスプレッション・ペダルで特定のパラメーターを コントロールする	43

SWITCHES - スイッチ・メニュー

スイッチの機能をカスタマイズする（パラメーター一覧）	44
----------------------------	----

MIDI メニュー

パラメーター一覧	46
外部 MIDI コントロール	46

UTILITY - ユーティリティ・メニュー

パラメーター一覧	47
Tap Master - タップ・マスター	47
ロック・パラメーター	47
クリア・パラメーター	47

目次

その他の機能

リレー機能：アンプのチャンネル・スイッチング

RELAY - リレー・メニュー	48
------------------	----

チューナー

チューナーの表示	49
チューナー・モード	49

TAP TEMPO - タップ・テンポ

タンブ・テンポ	50
---------	----

エフェクト

FILTER - フィルター

RESONANCE FILTER	レゾナンス・フィルター	51
TOUCH RESONANCE FILTER	タッチ・レゾナンス・フィルター	52
AUTO RESONANCE FILTER	オート・レゾナンス・フィルター	52
WAH WAH	ワウワウ	53
TOUCH WAH	タッチワウ	53
AUTO WAH	オートワウ	54
FORMANT FILTER	フォルマント・フィルター	54
TOUCH FORMANT FILTER	タッチ・フォルマント・フィルター	55
AUTO FORMANT FILTER	オート・フォルマント・フィルター	55

COMPRESSOR - コンプレッサー

ADVANCED COMPRESSOR	アドバンス・コンプレッサー	56
SUSTAINING COMPRESSOR	サステイン・コンプレッサー	57
PERCUSSIVE COMPRESSOR	パーカッシブ・コンプレッサー	57

MOD - モジュレーション

CLASSIC CHORUS	クラシック・コーラス	58
ADVANCED CHORUS	アドバンス・コーラス	59
CLASSIC FLANGER	クラシック・フランジャー	59
ADVANCED FLANGER	アドバンス・フランジャー	60
VIBRATO	ビブラート	61
VINTAGE PHASER	ヴィンテージ・フェーザー	62
SMOOTH PHASER	スムーズ・フェーザー	62
TREMOLO	トレモロ	63
PANNER	パンナー	64

PITCH - ピッチ

PITCH SHIFTER	ピッチシフター	65
OCTAVER	オクターバー	66
WHAMMY	ワームー	66
DETUNE	ディチューン	67
INTELLIGENT PITCH-SHIFTER	インテリジェント・ピッチシフター	68

DELAY - ディレイ

ディレイの共通パラメーター	69	
SINGLE DELAY	シングル・ディレイ	70
TAPE DELAY	テープ・ディレイ	70
REVERSE	リバース・ディレイ	70
LO-FI	ローファイ・ディレイ	70
PING PONG	ピンポン・ディレイ	70
DYNAMIC	ダイナミック・ディレイ	71
DUAL DELAY	デュアル・ディレイ	71

REVERB - リバーブ

リバーブ・タイプ	72
リバーブの共通パラメーター	72

EQ - パラメトリック EQ	73
-----------------	----

NOISE GATE - ノイズゲート	74
---------------------	----

付録

MIDI インプレメンテーション・チャート	75
FAQ - よくある質問	76
プリセット・リスト	77
仕様及び性能	79

この度は、G-System をご購入いただき、誠にありがとうございます。我々は、G-System が貴方のギター・セットアップの中核として長年ご活躍いただけることを確信しております。我々にとって新しいギター用の機材を紹介することはいつもエキサイティングです。ギタリストは機材に対する要求が幅広く、ギターの機材は単なる「サウンドを拡張した新機種 of キーボード」やただの「改良型のマイク」などと比較することはできないと考えています。貴方と 100% 同じギターのセットアップを組んでいる人を一人としてご存じでしょうか? 恐く、いないでしょう。その様な多様性を認識した上で G-System の様な機材を開発することは大きい挑戦ではありますが、TC エレクトロニックのスタッフ全員がそれぞれの使命を受け止め、納得の行く製品が出来上がったと考えています。

TC エレクトロニックでは、常にユーザー様の声を製品の改良や新製品の開発に生かしています。G-System は、今まで大成功を収めた G-Force や G-Major などの製品の開発で得られた経験と、それらの製品に対して長い年月に渡ってユーザー様からいただいた多くの反響やご意見を取り入れています。

主な機能

- フロア型マルチエフェクト・プロセッサー
- 同時に 9 つまでのエフェクトを使用可能
- ディレイのスピルオーバーを含む、高速でスムーズなプリセットの切替
- 4 つのモノ・ループを搭載し、外部エフェクト・ペダルのスイッチングが可能
- プリアンプ用のループ/インサート・ポイントを 1 系統搭載
- 4 x 9V DC 端子を搭載し、エフェクト・ペダルに電源を供給可能
- ソフトウェア・アップデート用の USB 端子を搭載
- コントロールボードを GFX01 と分離可能。コントロールボードをフロアで使用しながら GFX01 とループ接続する機材を 19" ラックに収納するなど、究極の柔軟性を提供します。
- 外部 MIDI 機器をコントロールするための MIDI 端子を装備
- 2 / 4 のエクスプレッション・ペダルを接続可能

本マニュアルで足りない情報は、TC Support ウェブサイトで情報が閲覧できます (www.tcelectronic.com からアクセス可能、英語のみ)。我々は、ユーザー様から寄せられた操作上の質問などを元に、マニュアルを更新しております。マニュアルの更新は PDF 形式でウェブサイトからダウンロードが可能です。マニュアルのバージョンはページ 3 の下に記載されています。



はじめに

本機でできること

まずは、G-System の基本的な構成と、どのようなシステムを構築できるかを解説いたします。この情報を元に、構築したいセットアップの構成を決める参考としていただければ幸いです。操作方法は別のセクションで後述いたします。

プリセットとバンクについて

5つのプリセットで1つのバンクを構成します。プリセットの切替には5つのプリセット・スイッチを、バンクの切替には▲▼ (UP/DOWN) スイッチを使用します。これらのスイッチで、サウンドを切り替えます。

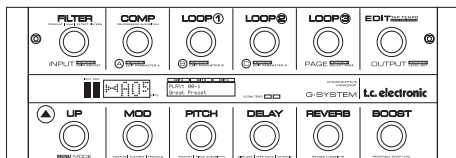
プリセットに含まれる内容



プリセットには、次の設定が含まれます。

- 使用しているエフェクト組み合わせ
- 使用している・していないに関わらず、エフェクト・ブロックの設定
- 使用しているループの組み合わせ
- エクスプレッション・ペダルがどのパラメーターに割り当てられているか
- その他

エフェクトとループの ON/OFF



これらのスイッチは、一つのプリセット内で、ディレイ/リバーブ/ピッチ/モジュレーション/フィルター/コンプレッション/ループなど、個別のエフェクトをプリセット設定の一部として ON/OFF するためのものです。これらのスイッチは、通常のコンパクト・エフェクトの ON/OFF スイッチと解釈できます。

ループ

G-System は、ブースターなどを接続するためのループを 4 系統と、プリアンプ用に設計されたループを 1 系統の、合計 5 系統のループを装備しています。5つのループをどの組み合わせで使用するかは、プリセット毎に指定できます。

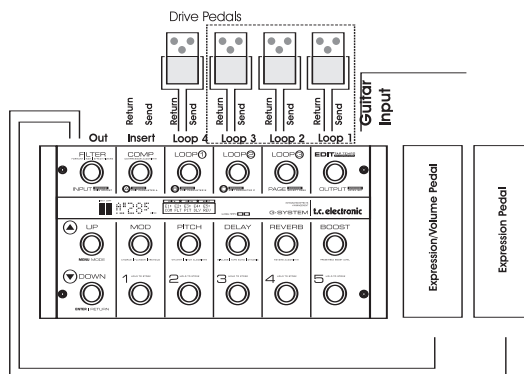
さらに、ループ 1～3 はコントロールボードから ON/OFF できます。スイッチの割り当てをカスタマイズすることにより、ボードから 4 つめのループ、またはプリアンプ用のループを ON/OFF することも可能です。

活用例 (概要)

G-System の活用法はギタリストの数だけ異なりますが、ここでは G-System の設計思想に一番忠実な例を紹介します。

まず、4 系統のループのいくつかには歪みのペダルが接続され、インサート・ループにプリアンプが接続されていると想定します。さらに、エクスプレッション・ペダルを接続することにより、ボリュームや、エフェクトのパラメーターをリアルタイムにコントロールできます。これは、例えばエクスプレッション・ペダルでピッチをコントロールすることにより、「ワーミー」エフェクトを得るなどの用途に使用できます。

この例では、セットアップは次の図のようになります。



- 5つのプリセット・スイッチでサウンドを切り替えることができます。プリセットの切替には、スイッチ 1～5 を使います。

例:

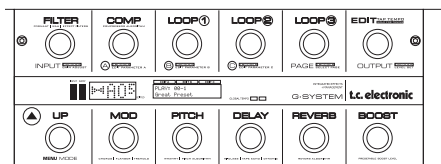
- 1 Rhythm 1 - リズム 1
- 2 Rhythm 2 - リズム 2
- 3 Crunch - クランチ
- 4 Dist - ディストーション
- 5 Lead - リード

これは単なる一例で、事前に組まれているプリセットではありません。G-System の柔軟性をどう活用するかは、ユーザー次第です。

プリセットが 5 つでは足りない場合は、▲▼ (UP/DOWN) スイッチで、異なる 5 つのプリセットから構成される別のバンクにアクセスできます。バンクは 40 まで作成できます。

- G-System の 1 つのプリセットには、各ループとエフェクト・ブロックの ON/OFF の状態、そしてエクスプレッション・ペダルに割り当てられているパラメーターの種類が含まれます。
- プリセットには、特定のエフェクト・ブロックの ON/OFF の状態に関わらず、各エフェクト・ブロックの設定が含まれます。
- プリセットには、特定のエフェクトが使用されているか否かに関わらず、各エフェクトの設定を含みます。

上記の例の様な基本的なプリセットを一組作成したら、楽曲の途中でプリセット・スイッチを押す事によりプリセットを切り替えられます。さらに、エフェクトの ON/OFF スイッチを押すことにより、同じプリセットの中で特定のエフェクト・ブロックを ON/OFF できます。ループの切替も同様に行えます。



例：ソロの出だしには少量のリバースのみを施し、ソロが進むにつれディレイやパンナー・オクターバーを足したり、BOOST スイッチでレベルをブーストさせることができます。

当然、これはほんの一例です。G-System のポテンシャルをどう生かすかは、貴方次第です。

カスタム・スイッチ機能

G-System にある程度慣れてきたら、セットアップをカスタマイズしたくなるかもしれません。

例えば、ボード上のスイッチの配列を変えたいかもしれません。

いくつかのエフェクト (例えば COMP と PITCH) の ON/OFF スイッチは必要を感じない反面、スイッチでループ 5 系統を全部コントロールしたくなるかもしれません。

G-System は、このような要求にも応えます。コントロールボードのスイッチの配列はあくまでもデフォルト (工場出荷時の設定) で、我々が多くくのギタリストのニーズを聞いた上で決定したものです。バランス良く幅広いニーズに対応できる反面、ギタリストによっては異なる設定を行いたい場面も想定されます。

G-System では、スイッチのレイアウトはカスタマイズすることができます*。

スイッチのレイアウトをカスタマイズするには、EDIT と次に MENU を押し、PAGE エンコーダーで Switches を選択、ENTER を押します。

* EDIT と▲▼ (UP/DOWN) スイッチだけは、他の機能に割り当てることができます。仮に EDIT スイッチを他の機能に割り当てられる様になると、その後に設定を元に戻すことができなくなってしまいます。

クイック・セットアップ・ガイド

クイック・セットアップ・ガイドは、G-System の基本的な設定方法を示します。マルチエフェクト・プロセッサーを初めて使用する場合は、より詳細な情報が必要と感じられるかもしれません。詳細は、後述のセクションで解説いたします。

「各部の名称と機能」セクションは、必ずご一読いただくことをお勧めいたします。

本体を箱から取り出す

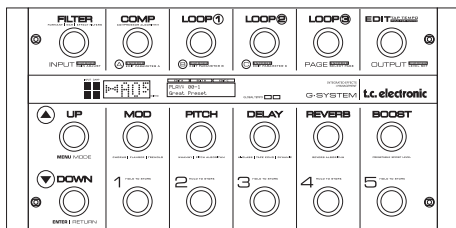
- 梱包を解く際には、カッターやハサミなどで中身を傷つけない様に、お気をつけください。
- 次のアイテムが含まれていることをご確認ください。
 - G-System
 - マニュアル
 - 電源ケーブル
 - CAT5 ケーブル
 - ペダル・エフェクト用 50cm 電源ケーブル × 4
 - スイッチ用のラベル
 - ユーザー登録書

マウント方法の選択

箱から取り出した状態では、G-System はフロアマウントのシステムとして組み立てられています。まずは、次の点をご確認ください。

G-System は、2 つの主なパーツから構成されています。

- コントロールボード**は、G-System の操作を行なうためのボードそのもので、エクスプレッション・ペダルを接続するための 1/4"ステレオ・ジャックと、**GFX01** を接続するための RJ45 端子を装備しています。



- GFX01** は 19"のラック・ユニットで、実際のプロセッシングを行ない、ループ用や電源等の端子を装備しています。

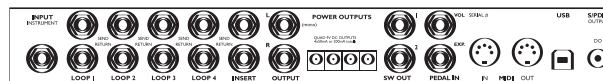


工場出荷時に、これらのパーツは一体型のフロア・プロセッサーとして組み立てられています。しかし、プリアンプやペダルなどループ接続したい機材をフロアではなく 19"ラックに収納したい場合には、コントロールボードと GFX01 を分離させて、GFX01 をラックに収納することができます。

まずは、音声を含めた配線をフロアマウントにするか、ラックマウントにするかを決めます。ラックマウントにする場合は、後述の「ラックマウント時の配線」セクションをご参照ください。

フロアマウント時の配線

それでは、G-System を配線していきましょう。このセクションでは、G-System を箱から取り出したままの状態、一つのフロア・プロセッサーとして使用する前提とします。まずは、GFX01 のリアパネルをご確認ください。



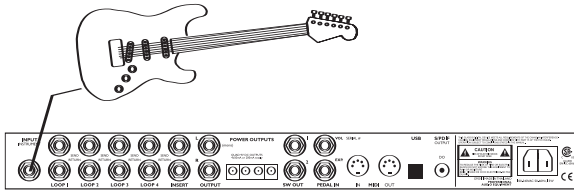
INPUT / INSTRUMENT - インプット/インストゥルメント

- ギターを INSTRUMENT INPUT 端子に接続します。



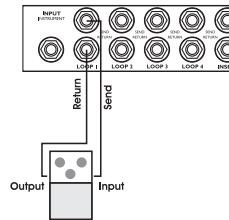
G-System は GFX01 のフロントとリアパネル両方に入力端子を持つため、使用する端子をセットアップする必要があります。この設定は、GLOBAL (グローバル) メニューの Input Select (インプット・セレクト) パラメーターで行ないます。

クイック・セットアップ・ガイド

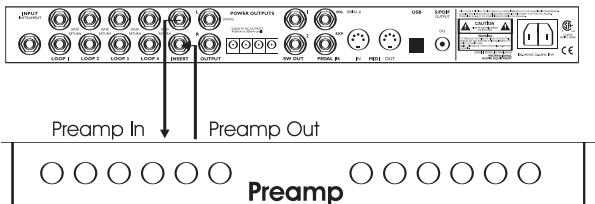


LOOP 1～4 / INSERT - ループ 1～4 / インサート

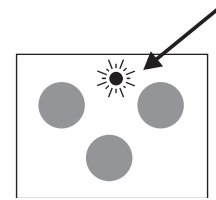
- LOOP 1～4 の端子には、4 つまでの歪みやモノ・エフェクトのペダルを接続できます。SEND（センド）からペダルの入力に、ペダルの出力から RETURN（リターン）に接続します。



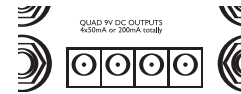
- プリアンプを接続したい場合は、INSERT を使用します。SEND からプリアンプの入力に、プリアンプの出力から RETURN に接続します。INSERT のループには、プリアンプの代わりに 5 つ目のエフェクト・ペダルを接続することもできます。



- ループ接続したペダルは、全て ON の状態にしておいてください。



- 使用するエフェクト・ペダルが 9V DC で駆動する場合は、4 つの 9V DC 端子から電源を供給できます（最大 200mA、合計）。使用したいペダルの電源の仕様が一致し、ペダルの合計の消費電力が G-System が供給できる電源の容量の範囲内であれば、ペダル用に外部のパワーサプライを用意する必要がなくなります。



- 使用するエフェクト・ペダルの電源の仕様がわからない場合は、エフェクト・ペダルのマニュアルをご参照ください。機種によっては、本体に電源の仕様が記されている場合があります。どちらにせよ、接続を行なう前に、必ず電源の仕様が正しいことをご確認ください。

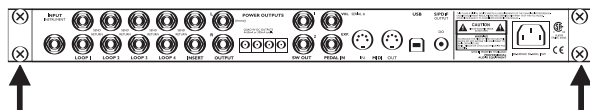
G-System の概要を一度ご理解いただければ、目的に応じてセットアップを組むこと自体は極めてシンプルであると確信しております。G-System は極めてフレキシブルであるが故に、一度に全ての機能を使用しないことも想定されますし、必ずしも全ての機能を使用しなければいけない、ということではありません。

しかしながら、いままで特定の機能を使用することがないために、その利便性を実感したことがなかった、という可能性もあります。G-System に搭載されている機能の中には、一度お試しくださいら手放せなくなる機能などもあるかもしれません。

クイック・セットアップ・ガイド

フロアマウント時の配線

前述の通り、GFX01と呼ばれる19"のユニットは、コントロールボードから分離させることができます。GFX01を取り出すには、4つのラックマウント用のネジを外します。



マウント用のネジは、6mmのものを採用しています。ラックによっては5mmのネジを使用するものもありますので、機材をラックに設置する場合には必ず正しいネジを使用していることを事前にご確認ください。

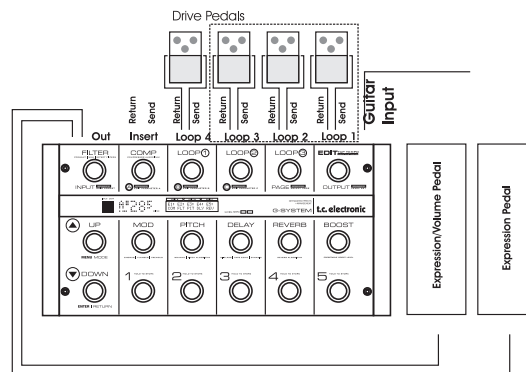


コントロールボードの強度を保つ観点から、コントロールボードからGFX01を取り出して使用する場合は、必ず取り出した場所にブラックパネルを設置してください。

- エフェクト・ペダルやプリアンプの接続方法は、前ページの解説と同じ方法で行ないます。
- GFX01をコントロールボードから取り出して使用する場合、GFX01とコントロールボードの間の配線には、長いCAT5ケーブル（別売）を使用します。
- ギターは、INPUT端子に接続します。



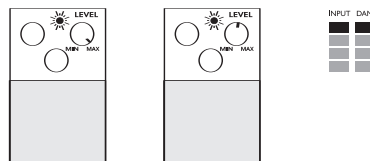
- エクスプレッション・ペダルを接続したい場合にラックから長距離の配線を行なわなくても済む様に、コントロールボード側にもペダル用の端子が装備されています。



レベルの設定

接続する歪みのペダルやプリアンプは、適切なレベルでご使用ください。外部機器のレベルをむやみに最大に設定すると、内部でオーバーロードが生じ、クリックや好ましくないデジタルの歪みが生じることがあります。入力レベルが高過ぎると、INPUT メーター上に赤のオーバーロードLEDが点灯します。

× ○ オーバーロード LED



G-Systemの入力ゲインの設定によっては、ループ接続しているエフェクト・ペダルやプリアンプ側でドライブのレベルを若干調節する必要があるかもしれません。

クイック・セットアップ・ガイド

プリセット操作

- G-System は 100 のファクトリー・プリセットを搭載しています。
- ユーザー・プリセットを 200 まで保存できます。
- プリセット 5 つで 1 つの「バンク」を構成します。

20 のファクトリー・バンクは、 A0 ～ A9、及び B0 ～ B9
と記されています。各バンクは、 1 ～ 5 のプリセットを含みます。

ユーザー・バンクは 0 ～ 39
と記されています。各バンクは、 1 ～ 5 のプリセットを含みます。

プリセットのリコール（呼び出し）

- プリセットをリコールするには、プリセット 1 ～ 5 のスイッチを押します。プリセット・バンクを切り替えるには、▲▼（UP/DOWN）スイッチを押します。
- ファクトリー・バンクとユーザー・バンクを切り替えるには、▲▼（UP/DOWN）スイッチを同時に押します。



- ループに接続するペダルとその設定はユーザーが自由に決められるため、ファクトリー・プリセットは一切ループを使用していません。
- ループ 1 ～ 3 は、LOOP 1 ～ 3 スwitchを押すことにより、簡単に ON/OFF できます。

プリセットのエディット（設定の変更）

エフェクトのパラメーターを選択する方法：

- EDIT を押し、EDIT モードに入ります。
- PAGE エンコーダーでエディットしたいエフェクトを選択します。
- ENTER を押し、選択を確定します。
- PAGE エンコーダーでエディットしたいパラメーターを選択します。
- A / B / C エンコーダーでパラメーターの値を変更します。

エディット・モードからエフェクトの ON/OFF を設定する方法：

- EDIT を押し、EDIT モードに入ります。
- PAGE エンコーダーでエフェクトを選択し、ENTER を押します。
- PAGE エンコーダーを時計回りに回すと、パラメーターのページが切り替わります。最後の選択肢は ON/OFF のパラメーターとなります。この設定を変更するには、C エンコーダーを使用します。

例：

EDIT A	EDIT B	EDIT C
MIX	OUTLEV	REVERB
20%	0dB	On

スイッチが割り当てられているエフェクトは、該当するエフェクト・スイッチで個別に ON/OFF できます。



LOOP 4 とインサート・ループ、そして専用のスイッチが割り当てられていないエフェクトは、EDIT モードから ON/OFF します。

プリセットのストア（設定の保存）

プリセットに加えた変更を保存するには、その設定をユーザー・バンクにストアしなければなりません。

- EDIT を押し、EDIT モードに入ります。
- 1 ～ 5 いずれかのプリセット・スイッチを長押しします。プリセット・ハンドル・モードに入り、デフォルトでストア機能が選択されている状態となります。
- A エンコーダーでプリセットの保存先を選択します。
- ENTER を押すとプリセットが保存されます。プリセットを保存する前にプリセット名を変更する場合は、B と C エンコーダーでプリセット名を変更します。

クイック・セットアップ・ガイド

備考

システムをセットアップするにあたって、他にお気をつけいただきたい点を記します。詳細については、マニュアルの各セクションをご参照ください。該当するセクションは、目次（3 ページ）でご覧いただけます。

「セットアップ例」セクションをご参照ください

他の機材を含めたセットアップ全体の配線については、「セットアップ例」セクションをご参照ください。

正しいケーブルをご使用ください

ループ 1 ～ 4 / インサート・ループ / エクスプレッション・ペダルを使用する場合は特に、接続先の機器に合わせて正しいケーブルをご使用ください。

エクスプレッション・ペダルは事前にキャリブレーションしてください

エクスプレッション・ペダルは、各社より異なる抵抗値と曲線の商品が発売されています。TC エレクトロニクスでは、特定の機種を「推奨」とするのではなく、より多くのペダルに対応できる様、ペダルのキャリブレーション機能を装備しています。この機能は、ペダルの「最低」「最高」「中間」の 3 つのポイントを学習させることで、ペダルの機種に関わらず適切なコントロールを行える様にするものです。

キャリブレーションは、PEDALS メニュー内にある「Calib.」を選択することで行えます。

ブースト機能

プリセット毎に、ブースト・レベルを設定することができます。これは、プリセットの単なるレベル設定ではなく、同じプリセットの中から、BOOST スイッチを押した際に事前に設定した量だけブーストを与えるものです。この機能により、例えば 3 回目のサビのセクションだけ 1 ・ 2 回目に比べて 3dB 音量を上げたい、といった時に、出力レベルだけが違うプリセットを重複して保存させる手間を省けます。

ロック機能

G-System では、プリセット毎に、使用するエフェクトやそれぞれの設定のみならず、ルーティング（内部エフェクトの接続順）、ループの ON/OFF、ブーストなど幅広い設定を行えます。場合によっては、プリセットを切り替えても一部の設定は変わらない様に設定したいかもしれません。この様な場合には、特定の設定を固定させるロック機能を使用できます。ロック機能は、UTILITY（ユーティリティ）メニューからアクセスできます。

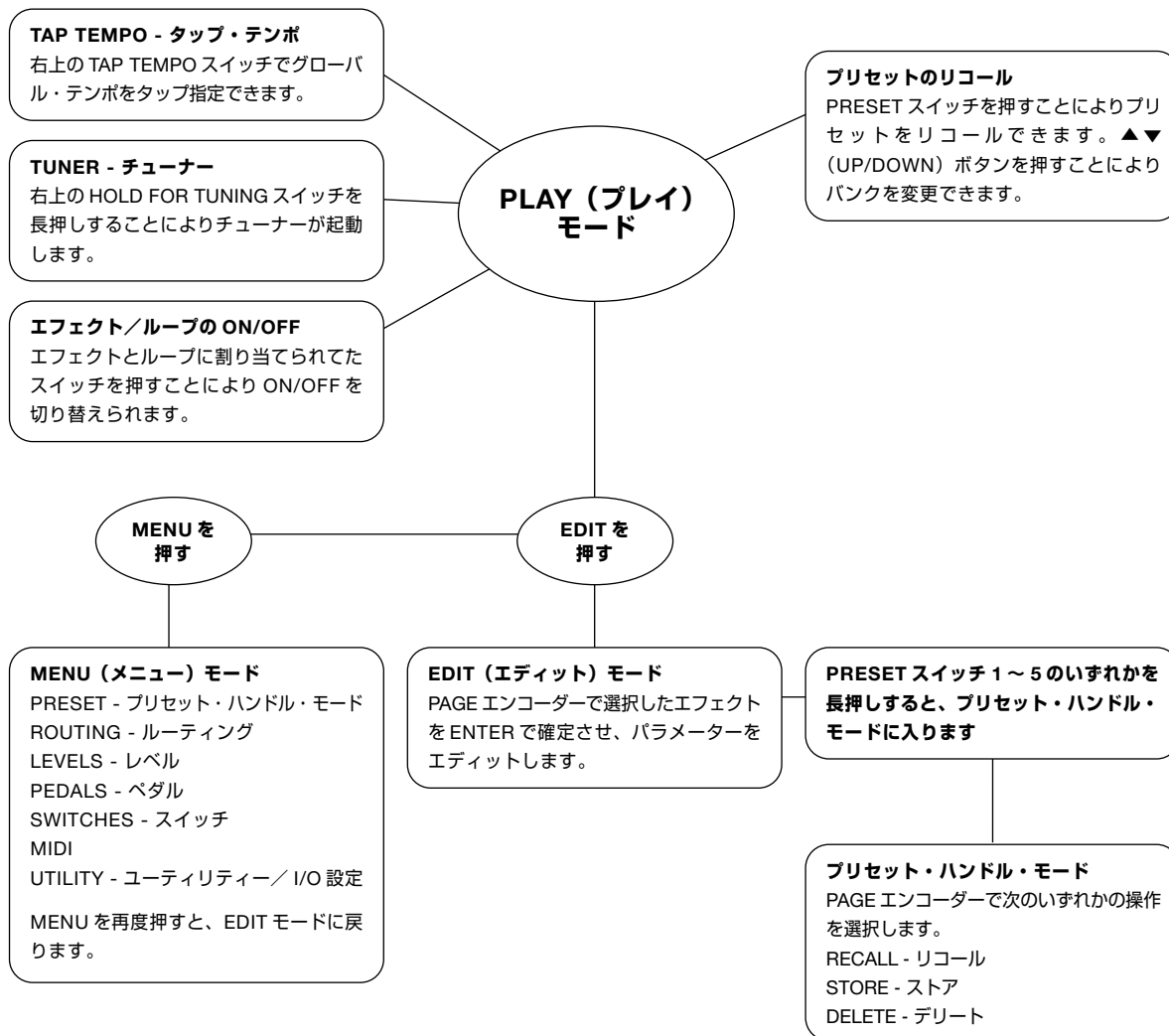
- ・ インサート・ループに接続したプリアンプを全てのプリセットで使用したい場合には、インサート・ループをロックできます。
- ・ ブースト・レベルをロックさせることにより、どのプリセットからもブースト機能を使用した際に同じ音量のブーストが得られる様に設定できます。
- ・ EQ セクションをロックさせ、マスター EQ として使用できます。
- ・ リレーをロックさせ、プリセットの設定に関わらずリレーの状態を固定させることができます。
- ・ ルーティング・タイプをロックさせることにより、内部エフェクトの接続順を固定させることができます。

スイッチ・オプション

G-System が搭載する 4 つのリレーを使って、外部機器のスイッチングを行えます。これは、たとえばプリアンプのチャンネル・スイッチングなどに使用できます。この設定は、プリセットに保存できます。

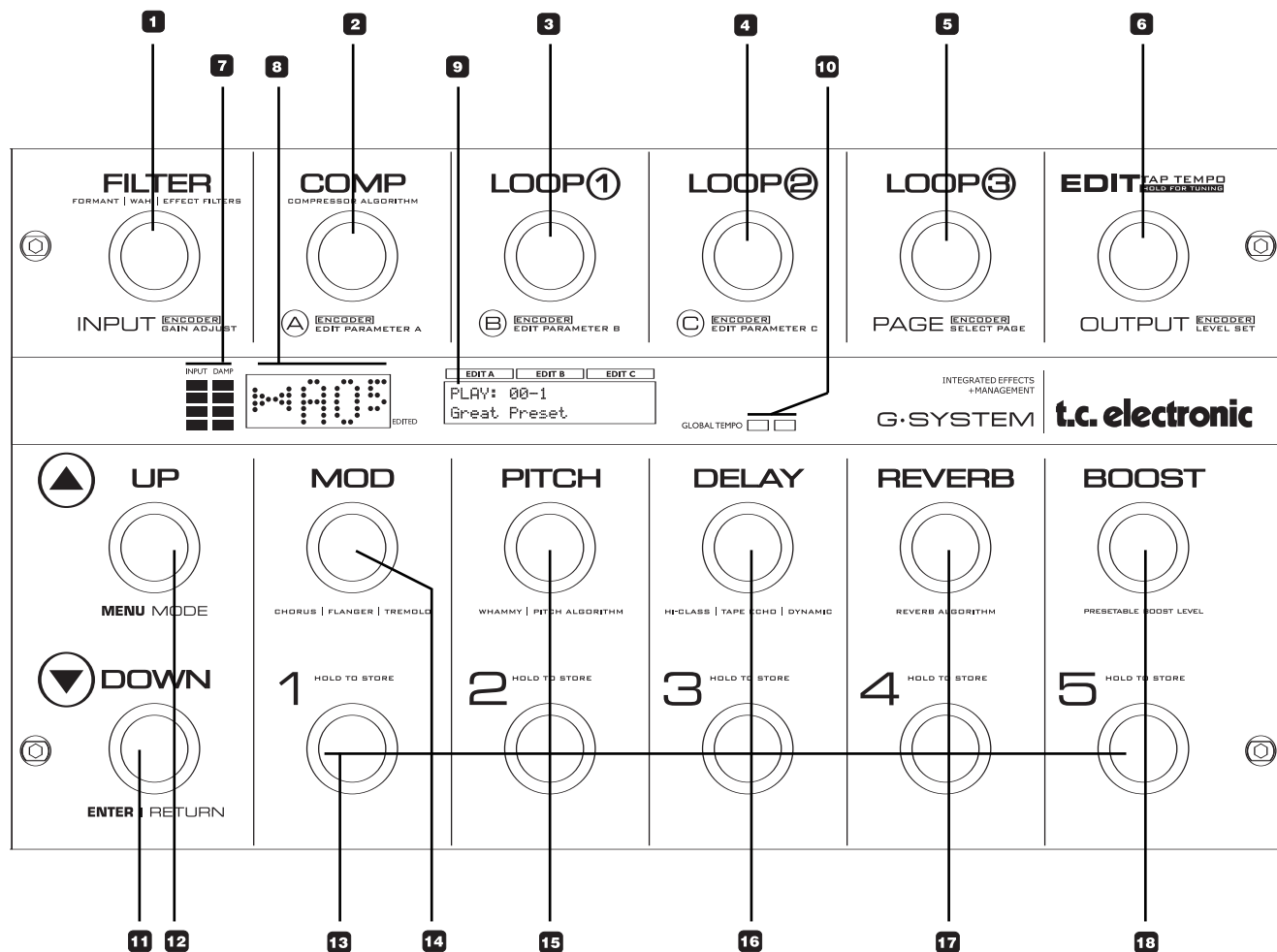
使用する入力端子の設定

GFX01 はフロントとリアパネル両方に入力端子を装備しています。これらは配線上の利便性のために用意されているもので、両方を同時に使用することはできません。G-System を使用する際には、使用する端子を選択する必要があります。設定は、GLOBAL（グローバル）メニューの Input Select（インプット・セレクト）パラメーターで行ないます。EDIT と MENU を押し、PAGE を回してパラメーターを選択します。



各部の名称と機能 コントロールボード - トップ

コントロールボード - トップ



各部の名称と機能 コントロールボード - トップ

本セクションは、PLAY と EDIT モード時それぞれにおける各スイッチの機能を解説します。EDIT モードに入るには、EDIT を押します。これらのページは全体の概要を記す目的のものです。詳細につきましては、各機能のセクションをご参照ください。

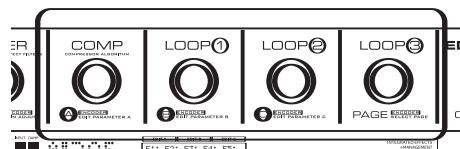
スイッチ／エンコーダーの呼び名について

G-System のスイッチとエンコーダーはそれぞれ複数の機能を持つため、各スイッチ／エンコーダーの周りには複数の記載があります。本マニュアルでは、解説する機能に応じて、同じエンコーダーの呼び名が変わることがあります。例えば、一つめのエンコーダーは、解説する操作／機能によって、FILTER または INPUT と記載されています。

基本操作

- 上段にある 6 つのスイッチは、各メニュー内でパラメーターの値を変更するためのエンコーダーを兼ねています。これらは、様々なメニューの中からパラメーターの値を変更する用途に使用します。メニューとは、関連する複数のパラメーターの集合体と解釈できます。
- メニューにアクセスするには、次の順にスイッチを押します。
EDIT スイッチ → PAGE エンコーダーでページ選択 → エフェクト・スイッチ
または EDIT スイッチ → エフェクト・スイッチ
または EDIT スイッチ → LOOP スイッチ
または EDIT スイッチ → MENU スイッチ → PAGE エンコーダーで
ページ選択 → ENTER スイッチ

- 各ページは、最大 3 つまでのパラメーターを持ちます。
- パラメーターの値は、A / B / C エンコーダーで変更できます。
- ページを切り替えるには、PAGE エンコーダーを回します。



PLAY モード

1 FILTER (フィルター) ON/OFF スイッチ

フィルターを ON/OFF します。

2 COMP (コンプ) ON/OFF スイッチ

コンプレッサーを ON/OFF します。

3 LOOP (ループ) 1 ON/OFF スイッチ

ループ 1 を ON/OFF します。

4 LOOP (ループ) 2 ON/OFF スイッチ

ループ 2 を ON/OFF します。

5 LOOP (ループ) 3 ON/OFF スイッチ

ループ 3 を ON/OFF します。

EDIT モード (EDIT を押す)

FILTER ブロックのパラメーターにアクセスします。エンコーダーは、Input Gain (入力ゲイン) を調節します。

スイッチを押すと、COMPRESSOR ブロックのパラメーターにアクセスします。エンコーダーはディスプレイ上の A パラメーターの値を調節します。

エンコーダーはディスプレイ上の B パラメーターの値を調節します。

エンコーダーはディスプレイ上の C パラメーターの値を調節します。

EDIT モードのパラメーターはページ毎 3 つづつに整理されています。エンコーダーはページを選択します。

各部の名称と機能 コントロールボード - トップ

PLAY モード

6 EDIT / TAP テンポ

スイッチを一度押すと EDIT モードに入ります。複数回押すと、グローバル・テンポをタップできます。テンポのパラメーターは、グローバル・テンポに対して任意のビート比率に分割できます。ビート分割の比率は各エフェクト・ブロックの Tempo パラメーターで指定します。

7 メーター

左側のメーターは入力レベルを示します。赤の LED が稀に点灯する様にレベルを調節します。右側のメーターは、ノイズゲートとコンプレッサーの作動状況を示します。

8 LED ディスプレイ - チューナー及びプリセット番号表示

ディスプレイの左側は、入力信号の音程が正確であることを示します。矢印が両方点灯している場合はチューニングは正確です。チューナー情報をディスプレイ全体に表示させ、出力をミュートすることも可能です。

9 LCD ディスプレイ

パラメーターのエディットなどに必要な情報が表示されます。

10 GLOBAL TEMPO - グローバル・テンポ LED

2つの LED でグローバル・テンポを示します。EDIT / TAP TEMPO スイッチでこのテンポをタップすることができます。エフェクトによっては、このテンポに対して指定したビート数の周期を持たせることができます。

11 ▼ DOWN (下) / ENTER/RETURN (エンター/リターン)

下のプリセット・バンクに移動します (バンク 3 → バンク 2、等)。

12 ▲ UP (上) / MENU MODE (メニュー・モード)

上のプリセット・バンクに移動します (バンク 2 → バンク 3、等)。

EDIT モード

エンコーダーはプリセットの出力レベルを調節します。スイッチを再度押すと、PLAY モードに戻ります。

状況に応じて、各種メニューに入る、あるいはメニューを終了します。さらに、操作の確定にも使用します。

EDIT スイッチの後にこのスイッチを押すと、MENU モードに入ります。MENU モードからは、MIDI やユーティリティ等の設定を行なえます。詳細は、本マニュアルの各セクションをご参照ください。

PLAY モード

13 プリセット・スイッチ 1～5

スイッチを押すと、使用中のバンク内にあるプリセット 1～5 をリコールします。PLAY モード内から各エフェクトやループの ON/OFF の状態を変えたり設定を変更した場合は、プリセットを保存しなければなりません。

14 MOD (モジュレーション) ON/OFF スイッチ

モジュレーション・エフェクトを ON/OFF します。

15 PITCH (ピッチ) ON/OFF スイッチ

ピッチ・エフェクトを ON/OFF します。

16 DELAY (ディレイ) ON/OFF スイッチ

ディレイ・エフェクトを ON/OFF します。

17 REVERB (リバーブ) ON/OFF スイッチ

リバーブ・エフェクトを ON/OFF します。

18 BOOST (ブースト) ON/OFF スイッチ

ブースト機能を ON/OFF します。

プリセット毎に、最大 10dB までのブースト・レベルを設定できます。

EDIT モード

2 秒間長押しすると、プリセット・ハンドル・モードに入ります。このモードからは、プリセットの保存や削除、プリセット名の変更が行えます。

MOD ブロックのパラメーターにアクセスします。

PITCH ブロックのパラメーターにアクセスします。

DELAY ブロックのパラメーターにアクセスします。

REVERB ブロックのパラメーターにアクセスします。

Boost Level パラメーターに直接移動します。Max Boost Level (最大ブースト・レベル) は LEVELS メニューにあります。

各部の名称と機能 コントロールボード - リア、GFX01 - フロントパネル

コントロールボード - リア



コントロールボードには、3つの端子が用意されています。

CONTROL LINK 端子は、コントロールボードを GFX01 と接続するための端子です。GFX01 をコントロールボード内に収める場合は、短い CAT5 ケーブルを使用します。

GFX01 をラックに収納する場合は、より長い CAT5 ケーブルが必要となります（別売）。安定性の観点から、XLR ケーシング付の高品質な CAT5 ケーブルを使用することを強くお勧めします。

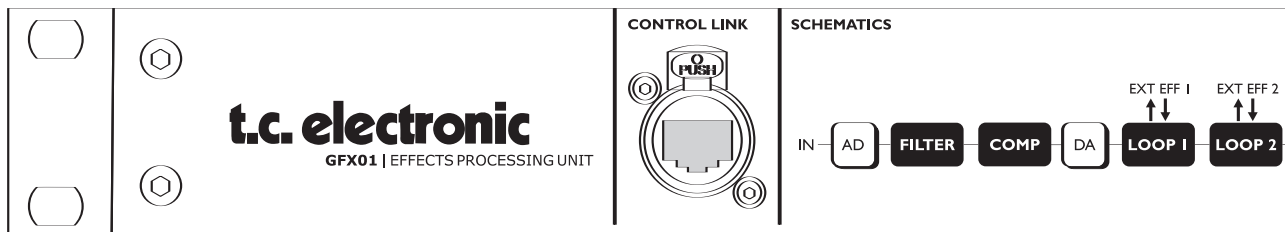
エクスプレッション・ペダル用の端子はコントロールボードと GFX01 両方に用意されています。

エクスプレッション・ペダルは、GFX01 をコントロールボード内に収める場合は GFX01 に、GFX01 をラックに収納する場合はコントロールボードに接続できます。

コントロールボードと GFX01 それぞれにペダルを2つずつ接続することも可能です。但しこの場合は全てのペダルを独立して使用できる訳ではなく、ステージの2箇所と同じ機能を持ったペダルを設置できる、という扱いとなります。

詳細については、本マニュアルの該当するセクションをご参照ください。

GFX01 - フロントパネル



CONTROL LINK - コントロール・リンク

CONTROL LINK 端子は、GFX01 をコントロールボードと接続するための端子です。GFX01 をコントロールボード内に収める場合は、短い CAT5 ケーブルを使用します。工場出荷時には、短いケーブルがすでに配線されています。

GFX01 をラックに収納する場合は、より長い CAT5 ケーブルが必要となります（別売、最大 15m）。安定性の観点から、XLR ケーシング付の高品質

な CAT5 ケーブルを使用することを強くお勧めします。

各部の名称と機能 コントロールボード - リア、GFX01 - フロントパネル

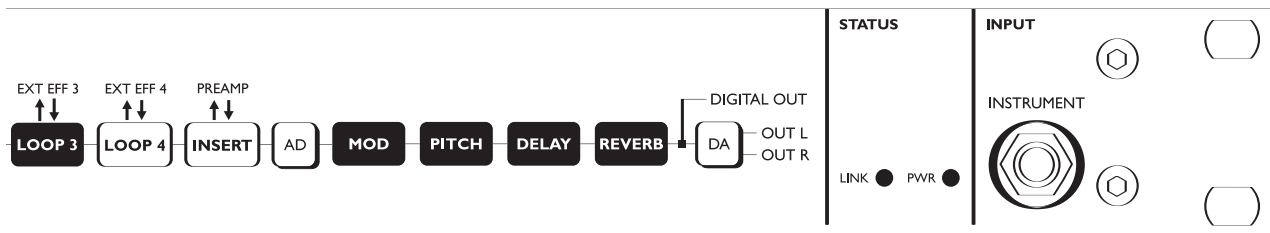
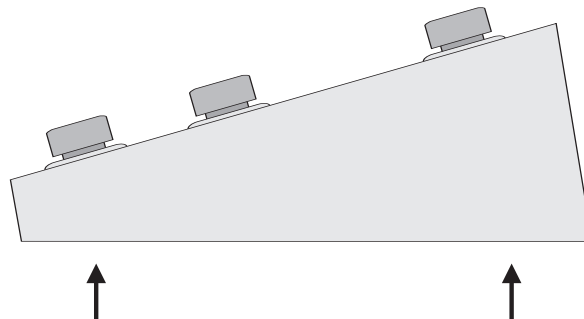
G-System をペダル用フライトケースにマウントする場合

G-System のシャーシはヘビーデューティーな素材を採用していますが、移動の衝撃などから本体を保護する観点から、フライトケースにマウントしたい場面も想定されます。

G-System のサイドパネルの底面には、スレッド付の Ø4mm の穴が 4 つ用意されています。



スレッドへの破損を防ぐため、必ず正しい種類のネジ（M4）をご使用ください。



INPUT / INSTRUMENT - インプット/インストゥルメント

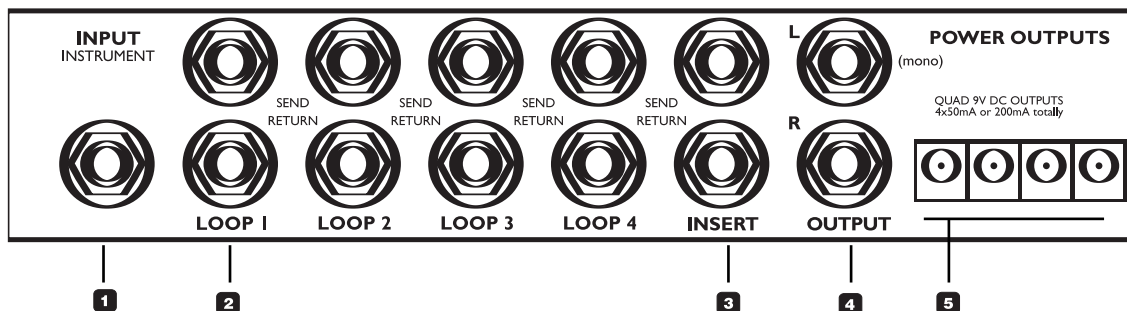
このフロントパネルにある入力端子は、リアパネルのインストゥルメント用入力端子と同じものです。GFX01 の設置方法によって、接続しやすい端子をご使用ください。



両方の端子を同時に使用することはできません。使用する端子は、GLOBAL LEVELS メニューの Input Select パラメーターで選択します。詳細については、ページ 35 をご参照ください。

各部の名称と機能 GFX01 - リアパネル

GFX01 - リアパネル



- 1 INPUT / INSTRUMENT - インプット/インストゥルメント**
ギター用の入力端子です。
NOTE: GFX01 をラックに設置する場合は、フロントパネルのインストゥルメント用入力端子を使用することも可能です。

- 2 LOOP 1 ~ 4 - ループ 1 ~ 4**
歪みのペダルなどを接続するためのループです。標準のアンバランス・ケーブルを使用してください。

ループの SEND からペダルの入力に、ペダルの出力から同じループの RETURN に接続します。

ループは 4 系統とも常に信号を SEND しています。リターン端子にジャックが差し込まれた時にのみブレイクされます。この設計により、ループの SEND 端子をドライ信号のスプリッターとして使用することも可能です。

- 3 INSERT - インサート**
プリアンプの接続を想定したループです。1 メートルを超えるケーブルを使用する場合は、バランスケーブルを使用してください。これはプリアンプ側がアンバランスの場合も同様で、バランスケーブルを使用すると特殊な疑似バランス回路が、通常のアンバランス接続では生じてしまうノイズを抑えます。

- 4 OUTPUT - アウトプット**
アンプに接続するための L/R 出力です。

- 5 POWER OUTPUTS - 電源出力**
接続したペダル・エフェクトに 9V DC 電源を供給するための 4 系統の出力端子です。合計で最大 200mA までの電流を供給できます。接続する前に、必ず接続先のペダル・エフェクトの極性（リング＝＋、ピン＝－）をご確認ください。

- 6 SW OUT - スイッチ・アウト**
プリセットの変更や MIDI による CC 情報でプリアンプやコンボ・アンプのチャンネル・スイッチングを行なうための 1/4" ステレオ・ジャック 2 系統です。

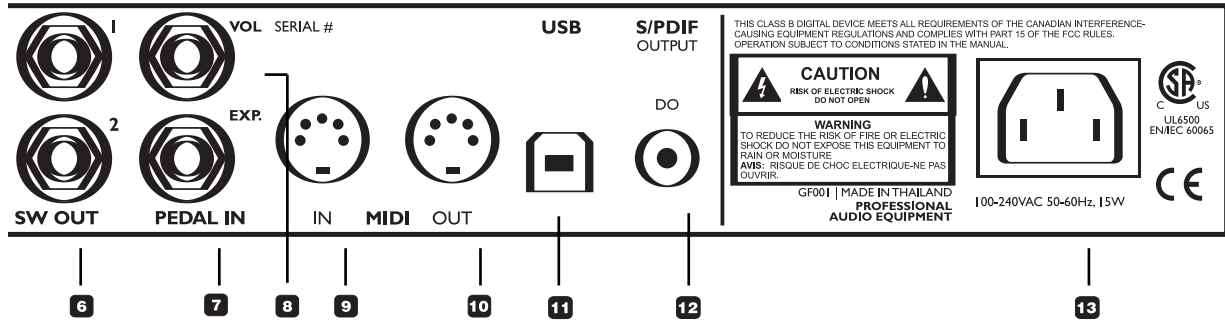
各端子につき、次のオプションが用意されています。

- チップ・グラウンド
- リング・グラウンド
- チップ/リング・グラウンド
- 結線なし

どの設定を使用するか、そして使用するケーブルの種類は、接続先の機材の仕様に従います。

一部のアンプについては、www.tcelectronic.com にスイッチングを行なうための仕様を公開しています。弊社ウェブサイトに情報が掲載されていない場合は、プリアンプまたはアンプの製造元にお問い合わせください。

各部の名称と機能 GFX01 - リアパネル



7 PEDAL IN / EXP. - ペダル入力／エクスプレッション

エクスプレッション・ペダルを接続するための端子です。ピッチをコントロールしてワーム効果を得るなどの用途に使用できます。

8 PEDAL IN / VOL - ペダル入力／ボリューム

エクスプレッション・ペダルを接続するための端子です。ディフォルトでは、ここに接続したペダルは LEVELS メニューの Input Gain パラメーターを調節します。

9 MIDI IN

プリセットを変更するためのプログラム・チェンジ情報や、外部からパラメーターを変更するための CC（コンティニュアス・コントローラー）情報を受信できます。

10 MIDI OUT

G-System は、プリセットを切り替えた際にプログラム・チェンジ情報を送信します。

11 USB

コンピューターからソフトウェアのアップデートを行なうための端子です。

12 S/PDIF OUTPUT - S/PDIF デジタル出力

デジタル信号を出力します。デジタル・レコーディングを行なう際に使用できます。

13 電源入力

G-System のスイッチモード・パワー・サプライは、100 ～ 240 VAC に対応しています。

セットアップ例

すでに機材にお詳しい場合は、このページの情報は有益でないかもしれませんが。このページでは、アンプの種類についての基礎知識を解説します。

一般的に、あらゆるセットアップはプリアンプとパワーアンプから構成されます。これは、使用するアンプが「ヘッド」であれ「コンボ」であれ、またはプリとパワーアンプが独立している場合でも、同様です。しかしながら、これらのコンポーネントに対して音がどの様に入出力されるかというのは、ケースバイケースで多くの可能性が考えられます。通常、「センド」は「プリアンプ・アウト」、「リターン」は「パワーアンプ・イン」と同意語となります。

プリアンプ

プリアンプは、基礎的なトーンを形成するための機器とお考えいただけます。多くの場合は、チャンネル1に「クリーン」、チャンネル2に「リード」といった具合に、少なくとも2チャンネルを搭載しています。

プリアンプは、高度なオーバードライブやディストーション・ペダルとお考えいただけます。

パワーアンプ

パワーアンプは、その前に接続されているプリアンプとエフェクトで形成したサウンドを増幅するのがその主な役割です。

ヘッド

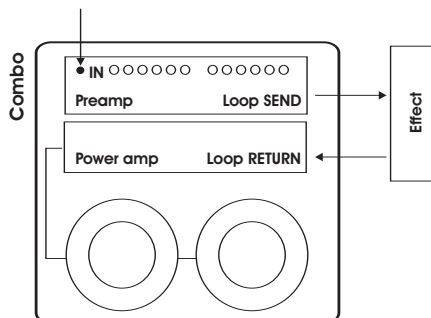
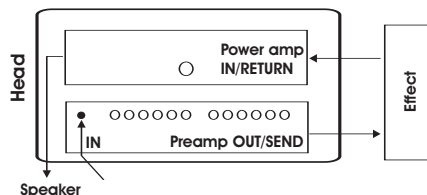
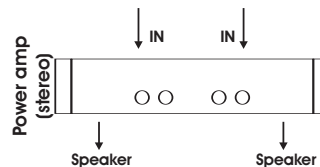
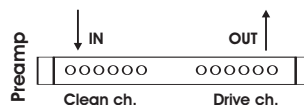
ヘッドとは、プリアンプとパワーアンプが一体化したものです。フロントパネルのインプットは、プリアンプの入力にあたります。エフェクト・ループのセンドはプリアンプの出力にあたります。エフェクト・ループのリターンは、パワーアンプの入力にあたります。

コンボ

コンボ・アンプは、プリアンプ／パワーアンプ／スピーカーが一体化したものです。ヘッドとスピーカーの組み合わせであることから、その名称で呼ばれています（コンボ／コンビネーション）。

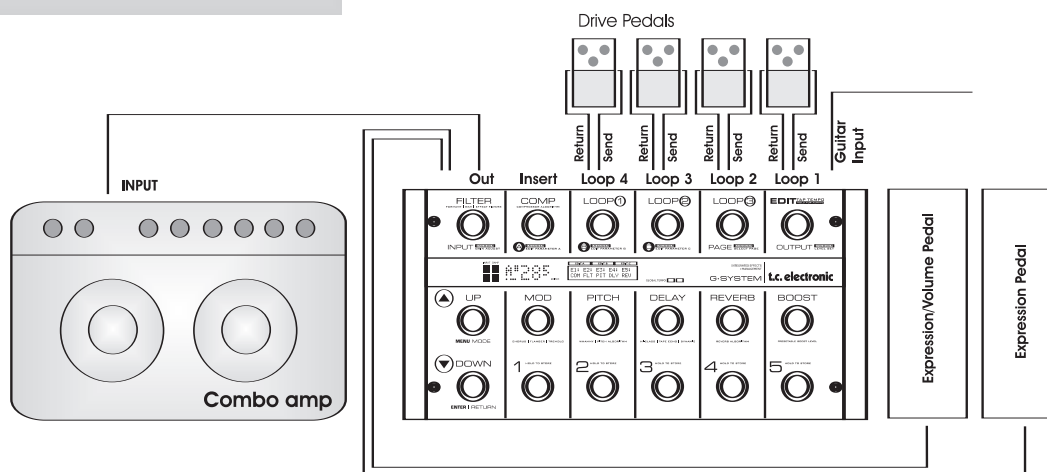


当然のことながら、製造者によってアンプの構成とそのパーツの名称は異なります。上記の概要は一般論として基本的な構成を解説したものです。同時に、パワーアンプの機種によってトーンの差があるのも事実であり、多くのギタリストはパワーアンプの機種や使用するチューブの種類もトーン形成の重要な要素の一つとして捉えています。このページは、あくまでもギター・アンプリフィケーションの一番基本的なコンセプトを解説するためのものです。



本セクションでは、G-Systemを他の機材と接続する方法を解説します。お持ちのセットアップと100%一致するものはないと思われますが、組み上げたいセットアップに近いものを参考に、貴方ならではの最強リグを構築してください。

コンパクト・ペダル+アンプ



このセットアップ例は、4つまでの歪みのペダルと1つのコンボ・アンプから構成されています。アンプを追加すると、ステレオ・セットアップとなります。

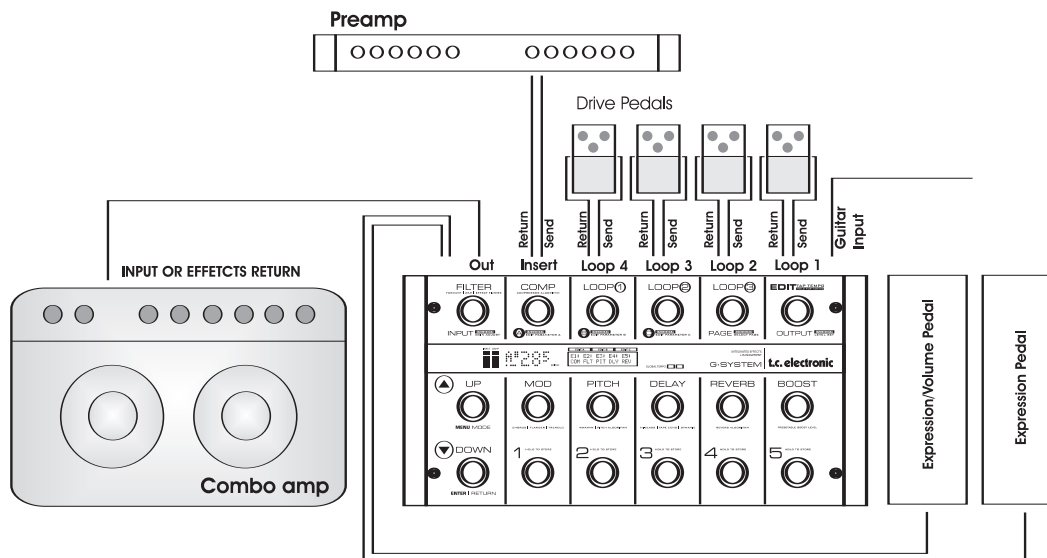
2つのエクスプレッション・ペダルは必ずしもなければならないものではありません。セットアップに組み込んだ場合は、ボリュームや特定のパラメーター（ワーム効果を得るためにはピッチ、等）をコントロールできます。

接続

- ギターを INPUT 端子に接続します。
- 4つまでの歪みのペダルを各ループに接続します。
- ループに接続したエフェクトは、常時 ON にしておいてください。
ループの ON/OFF は、ペダルではなく、G-System 側で行ないます。
- 標準 1/4" ケーブルを使い、エクスプレッション・ペダルを接続します。
ペダルの種類によって、適したケーブルの種類（モノ、あるいはステレオ）は異なります。
- G-System の出力をアンプの入力、またはアンプのループ・リターンに接続します。ステレオ構成で使用する場合は、アンプを2台使います。
- エクスプレッション・ペダルを使用する場合は、PEDALS メニューからペダルをキャリブレートしてください。

セットアップ例

コンパクト・ペダル+プリアンプ+アンプ



このセットアップ例は初めの例と似ていますが、インサート・ループにプリアンプが追加されています。プリアンプを使用するか否かはプリセット毎に指定できますが、一般的には常時使用の方が一般的でしょう。その場合は、MENU モードの UTILITY メニューから、プリセットを切り替えてもプリアンプの接続状況は切り替わらない設定にできます。

G-System からの出力は、アンプ側の入力かループ・リターンに接続できます。アンプの通常の入力を使用すると、「ダブル・プリアンプ」状態となり、プリアンプの設定に加えてアンプ側のトーン・コントロールを使用することができます。Vox AC30 や Fender Bassman などのセットアップでは一般的な使い方ですが、留意点としては、ループ・リターンを使用する接続法に比べるとノイズが増える点が挙げられます。

接続

- ギターを INPUT 端子に接続します。
- 4 つまでの歪みのペダルを各ループに接続します。
- ループに接続したエフェクトは、常時 ON にしておいてください。**
ループの ON/OFF は、ペダルではなく、G-System 側で行ないます。
- 標準 1/4" ケーブルを使い、エクスプレッション・ペダルを接続します。ペダルの種類によって、適したケーブルの種類（モノ、あるいはステレオ）は異なります。
- プリアンプを INSERT ループに接続します。MIDI プリアンプを使用している場合は、MIDI ケーブルを G-System の MIDI OUT からプリアンプの MIDI IN に接続します。
- G-System の出力をアンプの入力、またはアンプのループ・リターンに接続します。ステレオ構成で使用する場合は、アンプを 2 台使します。
- エクスプレッション・ペダルを使用する場合は、PEDALS メニューからペダルをキャリブレートしてください。

- 90

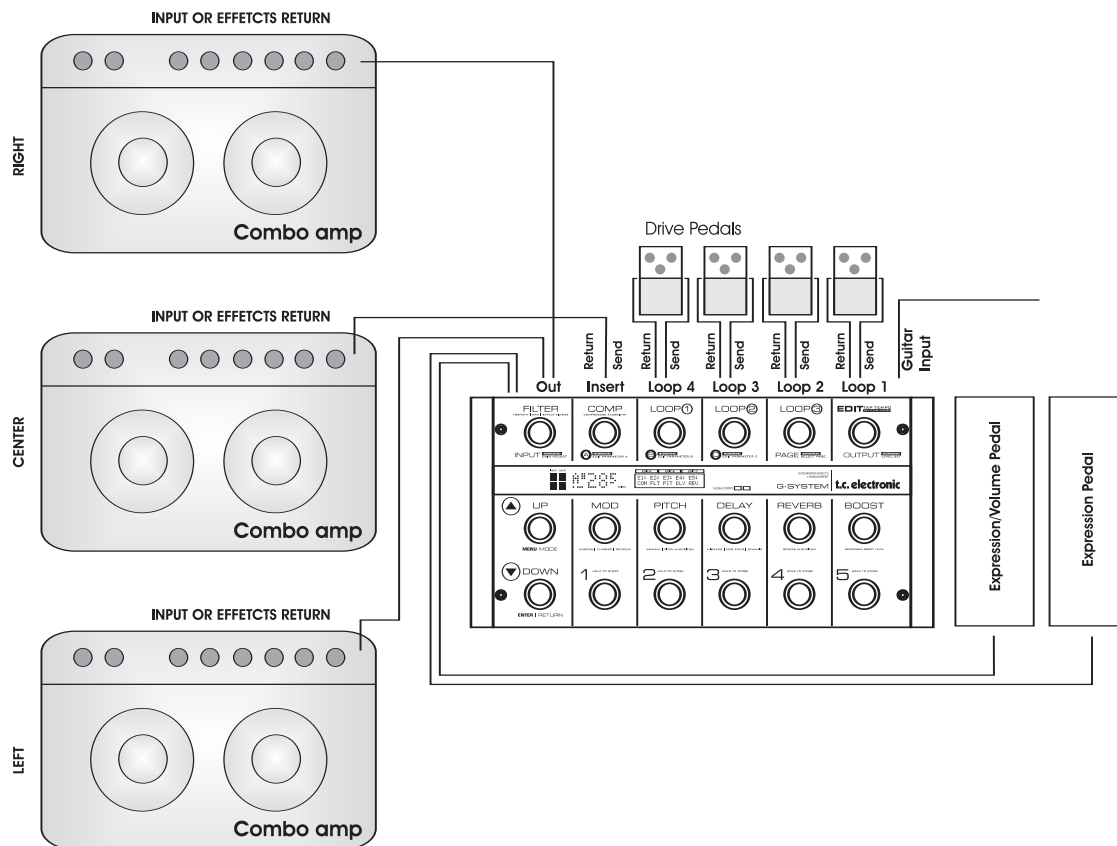
セットアップ例

複数台のアンプを使用した 3 ウェイ構成

このセットアップ例では、センター・アンプからはドライ信号（ループ 1～4 のペダルを除いて、エフェクトを通らない素の音）のみを鳴らします。左右のアンプでは、エフェクト音のみを鳴らします。

この場合は、G-System 側で全てのプリセットの Mix パラメーターを 100% にする必要があります。エフェクト・バランスは、各エフェクトの Out Level パラメーターで調節します。

歪みのコンパクト・ペダルやエクスプレッション・ペダルの接続法については、前述のセットアップ例の解説をご参照ください。



デュアル・アンプ

ソフトウェア・バージョン 1.05 以降では、プリセット毎に左右チャンネルの出力レベルを個別に指定することが可能になりました。この設定は、PRESET ROUTING メニュー（EDIT → MENU → Prst Routing）で行います。このオプションは、次の様な使い方ができます：

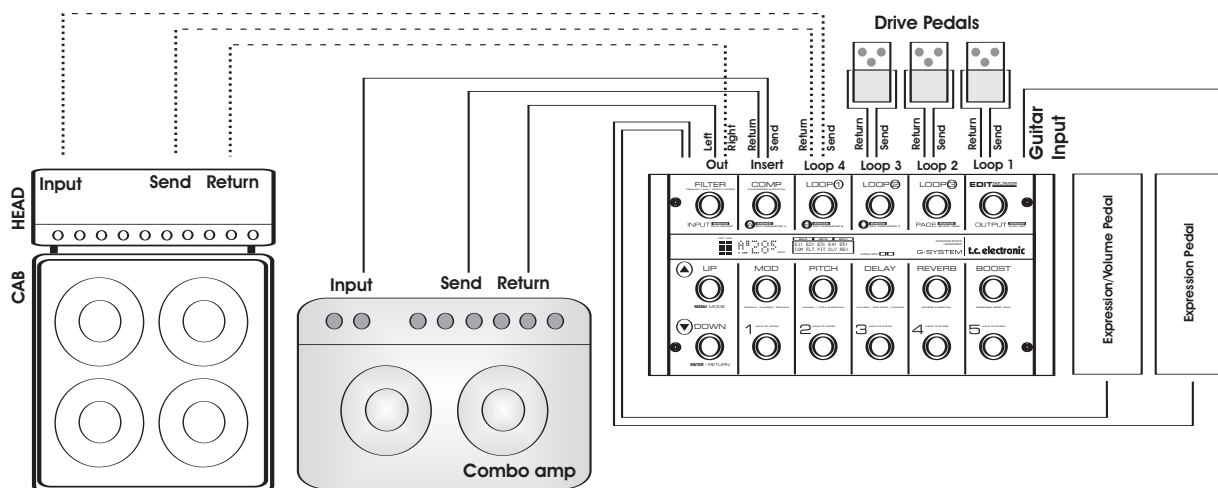
- クリーン用のサウンドを、左チャンネルの出力に接続したアンプに送る
- ドライブ用のサウンドを、右チャンネルの出力に接続したアンプに送る
- プリセットによっては、両方のアンプを同時に鳴らし、プリセット毎にそのバランスを調節

この図では、片方のアンプのプリアンプ・セクションはループ4に接続し、もう片方のアンプのプリアンプ・セクションはインサート・ループに接続されています。こうすることにより、どちらのプリアンプ・セクションを使用するかを、プリセット毎に個別に指定することが可能になります。

ほとんどの場合、両方のプリアンプを同時に使用することはないでしょう。

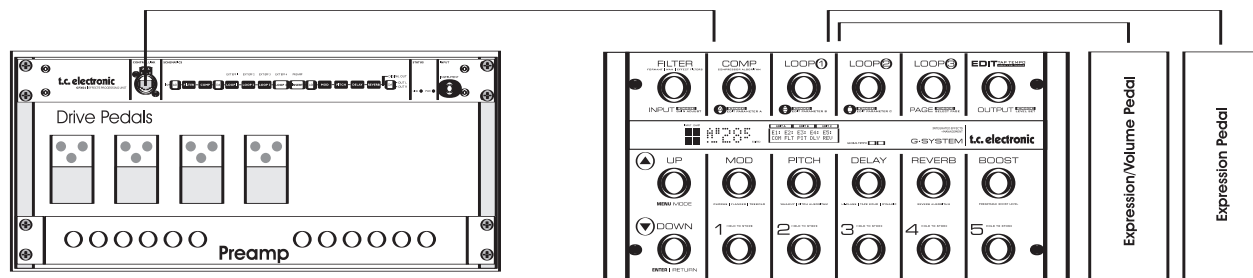
もう一つ一般的な例としては、クリーンと歪み用の2台のアンプを使用している場合で、歪みをペダル・エフェクターで作り込んでいるシナリオが考えられます。この場合でも上記と同様、プリセット毎に、出力をどのアンプに送るかを選択できます。この場合は、下の図から、アンプのSEND/リターンへの配線を省略します。

コンパクト・エフェクトやエクスプレッション・ペダルを接続する際の注意点等につきましては、本セクションの他のセットアップ例の解説もご参照ください。



セットアップ例

GFX01 をラックに収納する場合



接続

- GFX01（19"ユニット）とコントロールボード間の配線に使用している短いCAT5 ケーブルを外します。長いCAT5 ケーブルを用意します。
- コントロールボードの底面にある4つの6mm ネジを外し、GFX01 をコントロールボードと分離させます。
- GFX01 を19"ラックに収納します。
- 長いCAT5 ケーブルをGFX01 とコントロールボードに接続します。



マウント用のネジは、6mm のものを採用しています。ラックによっては5mm のネジを使用するものもありますので、機材をラックに設置する場合には必ず正しいネジを使用していることを事前にご確認ください。

歪みのコンパクト・ペダルやエクスプレッション・ペダルの接続法については、前述のセットアップ例の解説をご参照ください。

重要！

コントロールボードの強度を保つ観点から、コントロールボードからGFX01を取り出して使用する場合は、取り出した場所にブラックパネルを設置することを強く推奨します。



アングル付XLRケーシングのCAT5プラグを使用しない場合は、ブラックのフェースプレートを固定するウィングを180度回転させることにより、通常のXLRプラグを使用できるようになります。

- 各サイドパネルにあるネジ2つを外します。
- ウィングを180度回転させます。
- 外したネジでウィングを固定させます。

備考

システムをセットアップするにあたって、他にお気をつけいただきたい点を記します。詳細については、マニュアルの各セクションをご参照ください。該当するセクションは、目次（3 ページ）をご覧ください。

正しいケーブルをご使用ください

- ループ1～4
（高品質なモノラルのジャック／ジャック・ケーブル）
- インサート・ループ
（高品質なジャック／ジャック・ケーブル。1m 以上の配線を行なう場合はバランス・ケーブル）
- エクスプレッション・ペダル
（ペダルの種類に応じてモノ、またはステレオ・ケーブル）

エクスプレッション・ペダルは事前にキャリブレーションしてください

エクスプレッション・ペダルは、各社より異なる抵抗値と曲線のもので発売されています。TC エレクトロニクスでは、特定の機種を「推奨」とするのではなく、より多くのペダルに対応できる様、ペダルのキャリブレーション機能を装備しています。この機能は、ペダルの「最低」「最高」「中間」の3つのポイントを学習させることで、ペダルの機種に関わらず適切なコントロールを行える様にするものです。

キャリブレーションは、PEDALS メニュー内にある「Calib.」を選択することで行えます。

ロック機能

- ルーティング・タイプをロックさせることにより、内部エフェクトの接続順を固定させることができます。
- インサート・ループに接続したプリアンプを全てのプリセットで使いたい場合には、インサート・ループをロックできます。
- EQ セクションをロックさせ、マスター EQ として使用できます。
- ブースト・レベルをロックさせることにより、どのプリセットからもブースト機能を使用した際に同じ音量のブーストが得られる様に設定できます。
- リレーをロックさせ、プリセットの設定に関わらずリレーの状態を固定させることができます。

ロック機能は、UTILITY メニューから設定できます。

ブースト機能

プリセット毎に、ブースト・レベルを設定することができます。これは、プリセットの単なるレベル設定ではなく、同じプリセットの中から、BOOST スイッチを押した際に事前に設定した量だけブーストを与えるものです。ファクトリー・プリセットのブースト量は全て +6dB に設定されていますが、最大 +10dB まで設定できます。

この機能を活用することにより、特定のフレーズのみなどで音量を上げたい、といった時に、出力レベルだけが違うプリセットを重複して保存させる手間を省けます。LEVELS メニューの Boost Max パラメーターで、ブースト量の上限を設定できます。

スイッチ・オプション

G-System が搭載する4つのリレーを使って、外部機器のスイッチングを行えます。

リレー・スイッチングを設定するには、EDIT を押し、PAGE エンコーダーで RELAYS を選択、ENTER を押して選択を確定させます。詳細は、RELAY セクションをご参照ください。

使用する入力端子の設定

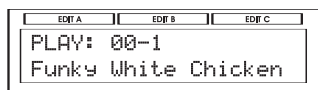
GFX01 はフロントとリアパネル両方に入力端子を装備しています。これらは配線上の利便性のために用意されているもので、両方を同時に使用することはできません。G-System を使用する際には、使用する端子を選択する必要があります。設定は、GLOBAL（グローバル）メニューの Input Select（インプット・セレクト）パラメーターで行ないます。Front（フロント）／Rear（リア）のいずれかを選択します。

基本操作 PLAY モード

PLAY モード - 概要

PLAY（プレイ）モードは演奏時に使用するモードで、プリセットのリコール（呼び出し）やエフェクト・ブロックの ON/OFF、そしてエキスプレッション・ペダルでパラメーターをコントロールすることができます。PLAY モード時には、画面の上部に「PLAY」と表示されます。

例：



まずは、PLAY モードで設定を変更する際の基本となる「プリセット」の概念から解説します。

プリセットとは

プリセットとは設定の集合体です。お好みのプリセットをスイッチで切り替えることにより、様々なサウンドに切り替えることができます。

プリセットには次の情報が含まれます。

- 使用しているエフェクト・ブロック
- エフェクト・ブロック（リバース、ディレイ等）の設定 - アクティブになっている／いないに関わらず、設定は保存されます。
- ループの状態（ON/OFF）
- エキスプレッション・ペダルの割り当て
- その他のパラメーター

プリセットの種類

プリセットには、2 種類あります。「ファクトリー・プリセット」は工場出荷時にサウンドが設定されており、上書きはできません。「ユーザー・プリセット」はユーザーが自由に設定を保存できます。

G-System は、デフォルトで 100 のファクトリー・プリセットを搭載しています。さらに、200 のユーザー・プリセットを保存できます。

ファクトリー・プリセットは、A0 ～ A9 のバンクに保存されています。各バンクは、5 つのプリセットを含みます。

ユーザー・プリセットは、0 ～ 39 のバンクに保存できます。各バンクは、5 つのプリセットを保存できます。

ファクトリー・プリセット

ファクトリー・プリセットには、ご自分のプリセットを作成する際の参考となる、様々なエフェクトの組み合わせが含まれています。

全てのファクトリー・プリセットでは、4 系統のループとインサート・ループは OFF となっています。

そのため、ファクトリー・プリセットのサウンドを使用する場合にも、ループの ON/OFF は手動で行なう必要が生じます。接続しているペダルやリアンプの ON/OFF の組み合わせをプリセットに保存したい場合は、そのファクトリー・プリセットからループの状態を変更した設定を、ユーザー・プリセットに保存してください。

G-System の使用時間が増えてセットアップが固定してくるにつれ、通常はユーザー・プリセットしか使用しなくなることが想定されます。その場合、ファクトリー・プリセットの主な使いみちは、新しいアイデアやサウンドを得るためのツール、になると思われます。

ユーザー・プリセット

ユーザー・プリセットの領域に、エフェクトやループの状態、アンプのスイッチング等の設定を最大 200 まで保存できます。

プリセットのリコール（呼び出し）

基本操作

- ▲▼（UP/DOWN）スイッチでバンクを選択します。バンク番号が点滅し、現在表示されているバンクのプリセットはまだ選択されていないことを示します。
- リコールしたいプリセット・スイッチ（1 ～ 5）を押します。
- プリセットはリコールされ、バンクの点滅が止まり、プリセット番号が表示されます。

備考

UTILITY メニューのパラメーターはプリセットには含まれません。

EQ、インサート・ループ、ブーストの各設定は、ロックすることができます。ロック機能を使用するには、EDIT と次に MENU を押し、PAGE エンコーダーで UTILITY を選択、ENTER を押します。ここから、PAGE エンコーダーで各種「Lock」パラメーターを選択、エンコーダー C でロックの状態を変更できます。

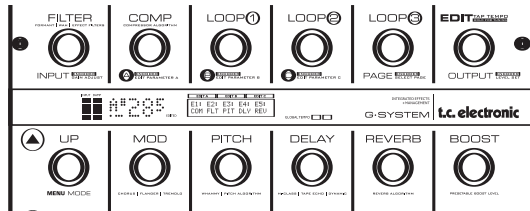
ロックされているパラメーターは、プリセットの変更時に変わりません。

プリセットのエディット（編集）

エディットとは、設定の編集のことを指します。G-System では、極めて容易にプリセットのエディットが行えます。

PLAY モードでのプリセットのエディット

- 該当するスイッチを押すことにより、ループとエフェクトを ON/OFF できます。各機能が ON の場合、そのスイッチが点灯します。



専用のスイッチが用意されていないループ 4 とインサート・ループの ON/OFF、そして詳細なパラメーターのエディットには、EDIT モードを使用します。

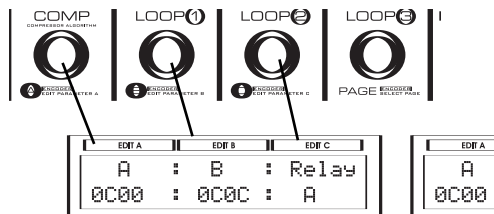
EDIT モード

EDIT（エディット）モードは、エフェクト・パラメーターの設定を行なうためのモードです。

基本操作

- EDIT を押します。
- PAGE エンコーダーを回してエディットしたいエフェクトを選択し、ENTER を押します。
- ページ毎に 3 つのパラメーターを変更できます。PAGE エンコーダーで、選択したいパラメーターを含むページを選択します。
- エンコーダー A/B/C で、パラメーターの値を変更します。

例；



エフェクト・パラメーターへの高速アクセス

エディットしたいエフェクトにスイッチが割り当てられている場合は、EDIT を押した後に該当するスイッチを押すことにより、簡単にエフェクトにアクセスすることができます。例えば、EDIT を押した後に REVERB を押すと、リバーブのパラメーターに瞬時にアクセスできます。

エフェクト・タイプの選択

ほとんどのエフェクト・ブロックでは、いくつかのエフェクト・タイプから 1 つを選択できます。エフェクト・ブロックはエフェクトの大分類、エフェクト・タイプは小分類と解釈すればわかりやすいかもしれません。例えば、DELAY（ディレイ）ブロックでは、シングル・ディレイ／テープ・ディレイ／リバース／ローファイ／ピンポン／ダイナミック／デュアル・ディレイの選択肢の中から一つのエフェクト・タイプを使用できます。

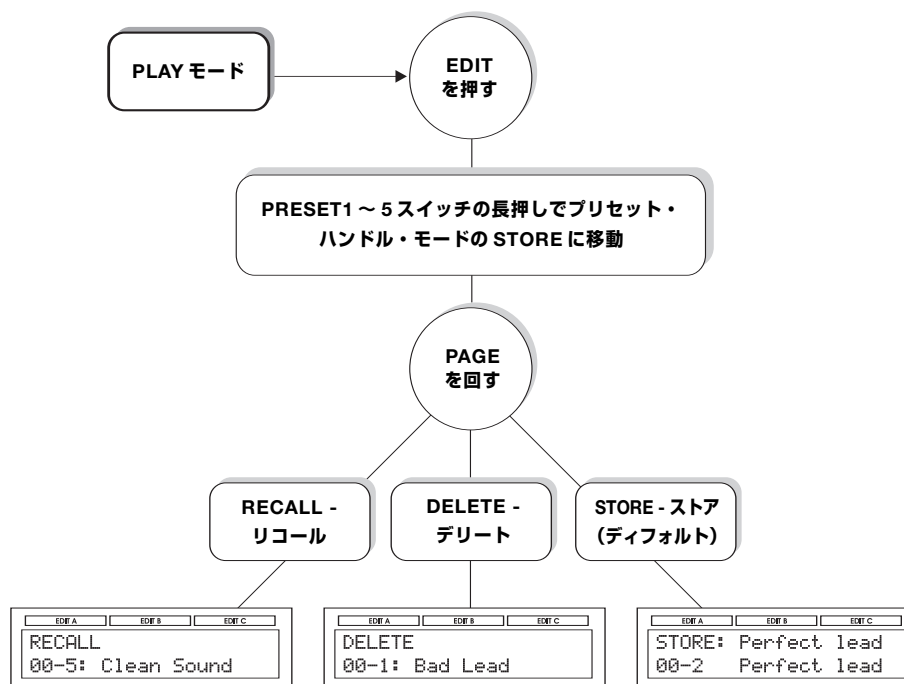
エフェクト・タイプの選択は、EFFECTS EDIT モードで行ないます。

- EDIT を押し、EDIT モードに入ります。
- PAGE エンコーダーを回してエフェクト・ブロックを選択し、ENTER を押します。
- PAGE エンコーダーを 1 クリック、反時計回りに回します。
- エンコーダー C で、エフェクト・タイプを選択します。
- ENTER を押します。

ループのステータス（状態）変更

- EDIT を押し、EDIT モードに入ります。
- LOOP スイッチ 3 つのいずれかを押します。
- PAGE で、LOOP ページを選びます。
- エンコーダー A/B/C で、各ループの ON/OFF の状態を変更します。

基本操作 プリセット・ハンドル・モード



プリセット・ハンドル・モード - 概要

プリセット・ハンドル・モードは、プリセット操作を行なうためのモードです。プリセットのストア（保存）、リコール（呼び出し）、デリート（削除）、そしてリネーム（名称の変更）が行えます。

プリセット・ハンドル・モードへの入り方

- EDIT を押します。
- PRESET 1～5 ボタンのいずれかを長押しします。
- PAGE エンコーダーで、STORE（ストア）／RECALL（リコール）／DELETE（デリート）操作のいずれかを選択します。

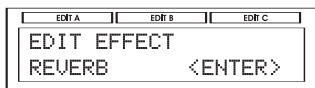
プリセットの名称の変更は STORE モードから行えます。

STORE - ストア（保存）

- ユーザー・バンクに、最大 200 までのプリセットを保存できます。
- ファクトリー・プリセットを保存する場合：
G-System は、ユーザー・バンク内にある最初の空いているプリセット領域を提示します。
- ユーザー・プリセットを保存する場合：
G-System は、元のプリセット領域を提示しますが、エンコーダー A で別の保存場所を指定できます。

プリセットの保存方法

- EDIT を押し、EDIT モードに入ります。
次の様な画面が表示されます（完全に一致しない場合があります）：



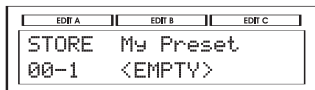
- PRESET 1 ～ 5 スイッチのいずれかを約 2 秒間長押しします。



これでプリセット・ハンドル・モードに入りました。デフォルトで、STORE 機能が選択されている状態になります。ここで PAGE エンコーダーを回すことにより、STORE / RECALL / DELETE のいずれかのサブ・モードを選択できます。



- 保存しようとしているプリセットが元はファクトリー・プリセットだった場合、G-System は、ユーザー・バンク内にあるはじめの空いているプリセット領域を提示します。保存しようとしているプリセットが元はユーザー・プリセットだった場合、G-System は、元のプリセット領域を提示します。いずれの場合も、エンコーダー A / B / C で、別の保存場所を指定することも可能です。



- この例では、バンク 00 のプリセット 1 が選択されています。
- 表示されている保存場所であれば ENTER を押します。エンコーダー B / C でプリセット名を変更します。エンコーダー B で変更したい文字の場所を変更、エンコーダー C で文字を選択します。

DELETE - デリート（削除）

ユーザー・バンクのプリセットを整理する際に特定のプリセットを削除する必要が生じた場合の手順は次の通りです。

- PAGE エンコーダーで DELETE モードを選択します。
- エンコーダー A で削除したいプリセットを選択し、ENTER を押します。「PRESET DELETED」と表示されます。

プリセット間のエフェクトのコピー

2 つのプリセットの間で一部のエフェクトの設定のみを一致させたい場合、エフェクトをコピーすることにより、同じパラメーター設定を二度入力する手間を省けます。

- まず、エフェクト設定のコピー先となるプリセットをリコールします。
- EDIT を押し、他のプリセットから設定をコピーしたいエフェクト・ブロックを PAGE と ENTER で選択します。
- PAGE を反時計回りに回し、「COPY（エフェクト）FROM」を選択します。
- コピー元となるプリセットをエンコーダー C で指定します。

例えば、リバーブの設定を他のプリセットからコピーしたい場合、表示は次の様になります：

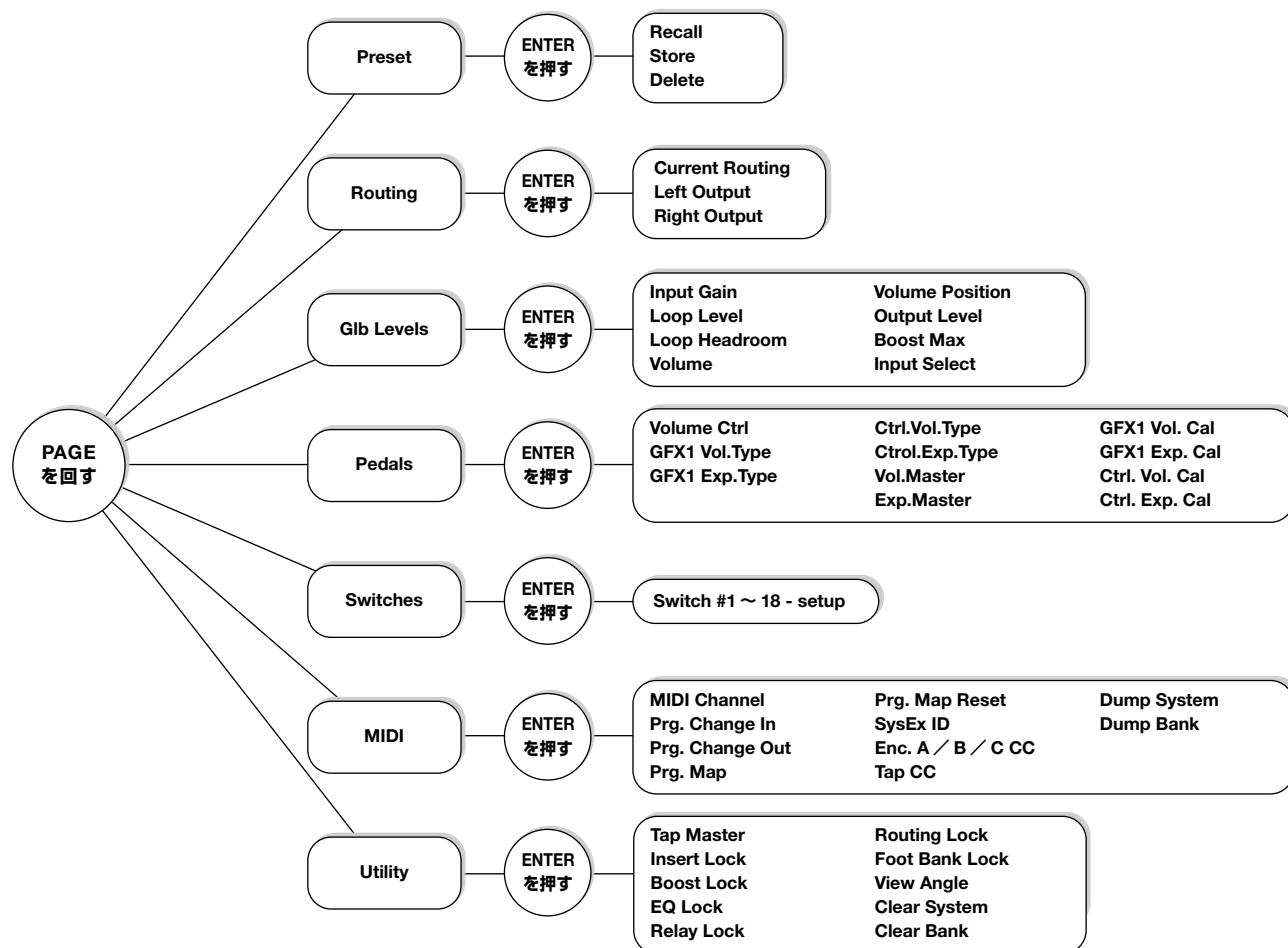


- ENTER を押します。「EFFECT COPIED」と表示されます。
- 必要に応じて、プリセットをストアします。

MENU モード 概要図

MENU モードへの入り方

- EDIT を押します。
- MENU を押します。



MENU モード ROUTING - ルーティング・メニュー

エフェクト・ルーティング - 概要

ルーティングとは、たとえばコンパクト・エフェクトを複数台使用する際の、各エフェクト機の接続方法とお考えいただければ分かりやすいかもしれません。

G-System では、エフェクトについて、シリアル／セミパラレル／パラレルの3種類のルーティング（内部接続形態）が可能です。

それぞれの特徴と使い方については、各セクションで解説します。

ルーティングの設定方法

- EDIT と次に MENU を押し、PAGE エンコーダーで ROUTING メニューを選択します。ENTER を押します。
- エンコーダー C でルーティングの種類を指定し、ENTER を押します。

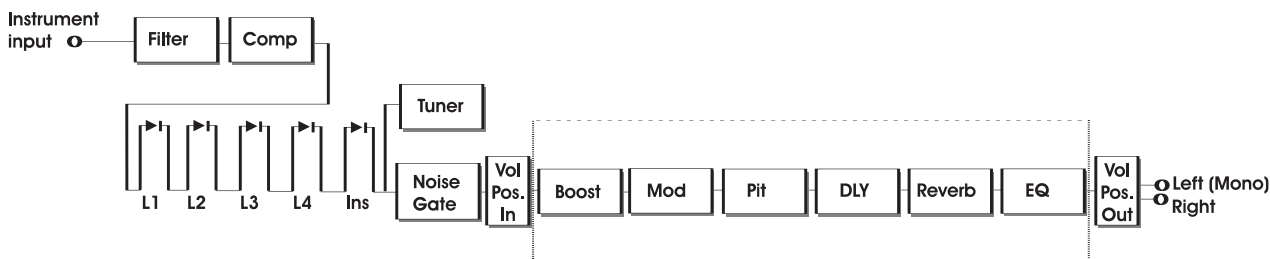
ルーティングの設定は、プリセットに保存されます。全てのプリセットで共通の設定を使用したい場合は、ルーティング・ロック機能を使用することにより、プリセットの変更時に設定が切り替わるのを防ぐことも可能です。

LEFT/RIGHT OUTPUT LEVELS - 左右チャンネル出力レベル

ROUTING メニューから、左右チャンネルの出力レベルを個別に保存することができます。設定レンジは、-100 ~ 0dB です。

これらのパラメーターにより、例えば2台のアンプを使用する場合で、プリセットによって使用するアンプを選択するなどの応用が可能です。両方のアンプを同時に発音させ、そのバランスを調節することも可能です。

SERIAL - シリアル（直列）



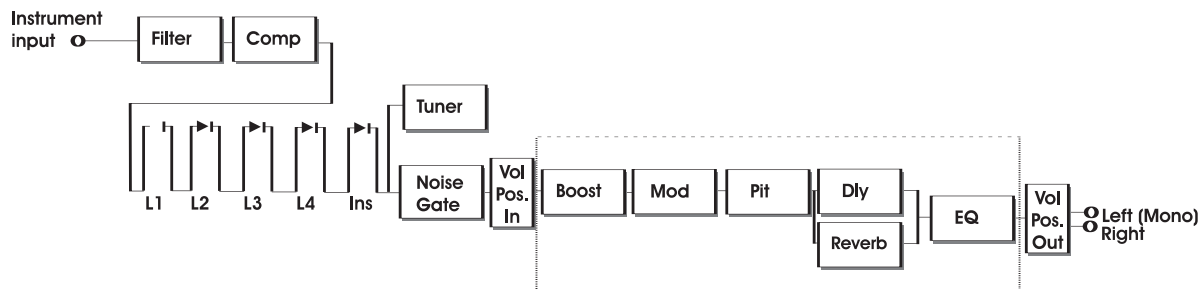
シリアルのルーティングでは、通常のコンパクト・エフェクトにおける配線と同様、各エフェクト・ブロックが順番に直列で接続されます。各エフェクト・ブロックは、その前に置かれたエフェクト・ブロックの影響を受けることになります。



長いディレイを使用する時は、ディレイの反復成分に加わるリバーブが邪魔になることがあります。その場合は、セミパラレルまたはパラレルのルーティングを使用してください。

MENU モード ROUTING - ルーティング・メニュー

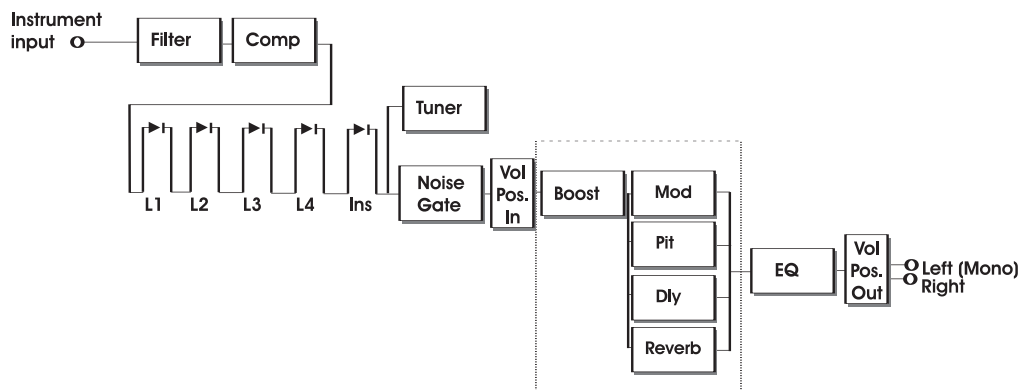
SEMI-PARALLEL - セミパラレル



セミパラレル・ルーティングでは、ほとんどのエフェクト・ブロックが直列に接続されますが、リバーブとディレイが並列に接続されます。そのため、ディレイとリバーブのエフェクトが影響しあうことはありません。これは、たとえば、ディレイの反復成分にリバーブがかかったり、その逆が発生し

ないことを意味します。リバーブとディレイが並列に接続されることで、両方を同時使用する際にエフェクトの音像が明瞭となる効果も得られます。

PARALLEL - パラレル（並列）



パラレルのルーティングでは、モジュレーション、ピッチ、ディレイ、リバーブが並列接続となり、それらのエフェクトは相互に影響しあいません。

ROUTING LOCK - ルーティング・ロック

ルーティングの種類は、プリセット毎に指定することができます。通常、プリセットを変更すると、プリセットで指定したルーティングに設定が切り替わります。

ルーティング・ロック機能はこれを停止し、ルーティングを固定します。そのためプリセット変更によって変更されるのは、エフェクト関連のパラメーターのみとなります。

プリセット変更をスムーズにするため、そしてプログラミングを簡単にする意味合いからも、ルーティングは極力同一のものを使用し、特別な効果や機能が必要なときのみ変更することをお勧めします。

多くのギタリストは、セミパラレルのルーティングに固定する様です。

ルーティング・ロックの設定方法

- EDIT そして MENU を押し、PAGE エンコーダーで ROUTING メニューを選択します。
- ENTER を押し、エンコーダー C で希望のルーティングを選びます。
- PAGE エンコーダーで ROUTING LOCK を選びます。
- ON または OFF に設定します。
- EDIT を再度押し、設定を終了します。

MENU モード LEVELS - レベル・メニュー

レベルの設定

ノイズ・レベルの最適化

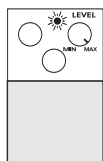
G-System を使用するにあたって、ノイズを最少に抑え、最善の S/N 比を得る方法を解説します。

ケーブル

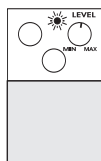
セットアップ全体を通して、正しくシールドされたケーブルを使用することは極めて重要です。また、パッシブ・ピックアップのギターを使用している場合、ギターと G-System の入力の間は、配線上最もデリケートなポイントとなります。良質なケーブルを使用することをお勧めいたします。

ペダルやプリアンプを最大のレベルで使用しないでください

G-System のループは極めて拾いダイナミック・レンジを確保しており、ほとんどのペダルに対応します。しかしながら、ループ・リターンへの返しがホットすぎる状態は生じ得ます。ループ接続したペダルの出力レベルが過大だと、G-System の内部でオーバーロードによる歪みが生じる可能性があります。ループ接続した機器のレベルは、適切な範囲でご使用ください。



Not good



Good !

インサート・ループ

インサート・ループにプリアンプを接続する場合でプリアンプを G-System から 1 メートル以上離れた場所に設置する場合は、バランスケーブルを使用することを強くお勧めいたします。これは、プリアンプがバランス端子を装備していない場合を含みます（ほとんどのプリアンプはバランス接続に対応していません）。

インサート・ループにプリアンプを接続する際にバランスケーブルを使用すると、特殊な疑似バランス回路が通常のアンバランス接続では生じてしまうノイズを抑えます。

入力レベル

G-System の楽器用入力にはデフォルトでほとんどのギター・ピックアップのレベルに対応しますが、最善の S/N 比を得られるよう、入力感度をファインチューンすることができます。

- EDIT を押し、INPUT エンコーダーで入力レベルを調節します。
- Boost Max. と Loop Headroom パラメーターも合わせて調節することをお勧めいたします。

このメニューにある全てのパラメーターはグローバルな扱いで、設定はプリセットには含まれません。

LEVELS - レベル・メニュー

操作概要

- EDIT と、次に MENU を押します。
- PAGE エンコーダーで Levels を選択します。
- ENTER を押します。

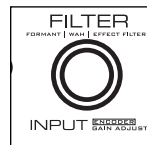


Input Gain - 入力ゲイン

設定レンジ：-8 ~ +18 dB

ギターを接続した際の楽器入力の入力ゲインを調節します。

Input Gain が正しく設定された状態では、クリーンなサウンドでパワー・コードを強く弾いた際に入力メーターの赤 LED が稀に点灯します。



入力ゲインを素早く調節するには、EDIT を押した後に INPUT エンコーダーを回します。再度 EDIT を押すと、PLAY モードに戻ります。

Loop Level - ループ・レベル

設定レンジ：0 ~ 10 dB

ループ・セクションのレベルを設定します。ループに接続したドライブ・ペダルが G-System に接続していない状態の方が強い歪みが見られると感じる場合に、このパラメーターで補正できます。

MENU モード LEVELS - レベル・メニュー / BOOST - ブースト機能

Loop Headroom - ループ・ヘッドルーム

エフェクト・セクションの入力側の感度を調節します。ループに接続したペダルやプリアンプが信号を極端にブーストしてしまう場合は、これらの機器の出力レベルを下げるか、Loop Headroom を下げることで調節します。両方を併用することも可能です。

このパラメーターの設定レンジは、Loop Level の設定値に依存します。



ループに接続した機器のレベル

接続したペダルのレベル設定によっては、G-System の内部でオーバーロードを起こしてしまう可能性があります。内部でオーバーロードが生じると、デジタルの音割れが発生します。

Volume - ボリューム

設定レンジ：-100 ~ 0 dB

エフェクト・セクションの前後いずれかのレベルを調節します。前後どちらのボリュームを調節するかは、Volume Position パラメーターで指定します。

Volume Pos. (Volume Position) - ボリューム・ポジション

設定レンジ：Input / Output

ボリュームを調節する場所を指定します。

Input: 最後のループの出力と最初のエフェクトの間でボリュームを調節します。この設定ではエクスプレッション・ペダルなどでボリュームを完全に絞った場合でも、ディレイやリバースなど尾を引くエフェクトが鳴り続けます。

Output: エフェクトの後でボリュームを調節します。エフェクトを含めた信号全体の音量が変わります。

Output Level - 出力レベル

設定レンジ：-100 ~ 0 dB

G-System 全体の出力レベルを調節します。接続先のアンプの入力と組み合わせてレベルをトリムします。ほとんどのアンプは入力メーターを持たないため、この設定は耳で行なうしかありません。アンプの入力段で過大レベルが生じると、意図しない歪みが生じる場合があります。その場合は、Output Level を下げます。この歪みがお好みのサウンドであれば、通常はあえて出力レベルを下げる必要はありません。



Output Level を素早く調節するには、EDIT を押した後に OUTPUT エンコーダー（スイッチ 6）を回します。再度 EDIT を押すと、PLAY モードに戻ります。

Boost Max - 最大ブースト・レベル

設定レンジ：0 ~ 10 dB

デジタルの領域でブーストを行なうには、常にレベルの余裕を持たなければなりません。つまり、ブーストを行なうということは、通常はレベルを下げておき、ブースト時に元に戻す、ということになります。このパラメーターは、通常のアッテネーション量を指定することにより、BOOST メニューで指定したブーストの量を制限します。

多くのギタリストは、6dB で十分のブーストが得られると感じるようです。この場合は、Boost Max を 6dB に設定します。演奏時に目立つには Boost Max を常に 10dB に設定したい誘惑にかられるかもしれませんが、これは S/N 比を損なってしまうために、お勧めいたしません（この例では、S/N 比が 4dB 損なわれます）。

Input Select - インプット・セレクト

設定レンジ：Front（フロント） / Rear（リア）

ギターは、GFX01 のフロントとリアいずれかの楽器用入力端子に接続できます。一般的には、GFX01 がラックに収納されている場合はフロントを、フロア・ユニットに収納されている場合はリアを使用します。両方を同時に使用することはできません。

BOOST - ブースト機能

プリセットを作成し、それらのレベルの統一も完了したとします。ここで、スイッチを一つ押すだけでソロ用にレベルを持ち上げることができたら...ブースト機能は、この様な場合に活躍します。

BOOST スイッチ

- ブースト・レベル（ブーストする量）は、プリセット毎に指定できます。
- 最大のブースト量は 10dB です。

UTILITY メニューの Boost Lock パラメーターを ON にすると、プリセットの設定に関わらず、ブーストした際に得られる音量の増加は全て同じとなります。

UTILITY メニューから Boost Lock 機能を ON にすると、その時点で使用しているプリセットの Boost Level の設定が、全てのプリセットに反映されるようになります。

プリセットの Boost Level を設定する方法

- EDIT と、次に BOOST を押し、エンコーダー A でレベルを設定します。
- プリセットを保存します。

MENU モード PEDALS - ペダル・メニュー

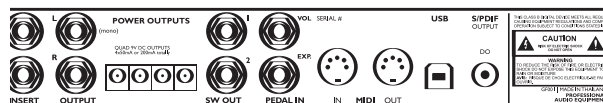
エクスプレッション・ペダルの用途

エクスプレッション・ペダルは、ボリュームなどのパラメーターをリアルタイムに手動で調節する用途に使用します。通常のボリューム・ペダルはギターの信号が直接通過しますが、特に長距離の配線を行なうと音質の劣化を招いてしまいます。エクスプレッション・ペダルを G-System に接続して G-System の Volume パラメーターを調節することにより、よりスマートなシステムが構築できます。

エクスプレッション・ペダルは音量だけのものではありません。ペダルでピッチを調節すればワーム効果が得られますし、ディレイのリビート量を調節したり、トレモロのスピードを変えたりする用途にも使用できます。可能性は莫大です。エクスプレッション・ペダルがどのような効果をもたらすかは、プリセット毎に指定できます。これは、プリセット毎に、違う機能を持たせることができることを意味します。

プレイヤーによって、エクスプレッション・ペダルの機能を固定させたい人と、プリセット毎に違う効果を得たい人に分かれます。これは純粋な好みの問題ですので、G-System では、ペダルの割り当てをプリセットの設定に依存しないグローバルな設定にすることもできます。

G-System のコントロールボードと GFX01 を見ると、まず GFX01 に 2 つのエクスプレッション・ペダル用の入力端子が装備されているのが確認できます。



また、コントロールボードにも二つの入力端子が用意されています。



これらの端子は「クローン」—すなわち重複であり、独立していません。プリセットごとに 2 つのパラメーターをコントロールすることができ、機能毎に二つのペダルを接続することができます。これは、ステージの 2 箇所に同じ機能を持ったペダルを設置できる、という応用を可能とします。



4 つのペダルのキャリブレーションは全て独立して行えます。

デフォルトでは、片方のエクスプレッション・ペダル入力は G-System のボリュームに固定されており、グローバルな Input Gain (入力ゲイン) パラメーターに割り当てられています。しかし、前述の通り、エクスプレッション・ペダルの割り当ては、自由に換えられます。

重要

- エクスプレッション・ペダルは、G-System でアサインできる全てのパラメーターのコントロールに使用できます。
- ボリューム・ペダルでコントロールするのは、ボリューム・パラメーターのみとしてください。ボリュームペダルで他のパラメーター（ワームやワウ等）をアサインすると、正しく作動しないことがあります。

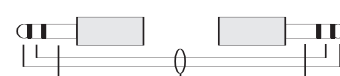
ペダルの接続

エクスプレッション・ペダルの種類によって、使用するケーブルの種類は異なります。ペダルの機種によって、1/4" のモノラルあるいはステレオ・ケーブルを使用します。

モノラル



ステレオ



使用すべきケーブルの種類がわからない場合は、ペダルの製造元に確認するか、両方のケーブルをお試しください。Y ケーブルなどで複数のペダルを 1 つのペダル入力端子に接続することはできません。

ペダルの設定

接続したペダルを有効活用するには、ペダルをキャリブレーションした後に、ペダルの機能とタイプを指定する必要があります。

基本操作

- EDIT と、次に MENU を押します。
- PAGE エンコーダーで Pedals を選択し、ENTER を押します。
- PAGE エンコーダーでパラメーターを選択し、エンコーダー C で値を変更します。

PEDALS メニュー概要

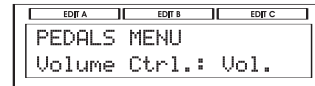
パラメーター	設定レンジ
Volume Ctrl. - ボリューム・コントロール	None (なし) / Vol. / Exp. / Enc A ~ C
GFX1 Vol. Type - GFX Vol. タイプ	Off / Momnt / Alt / Exp. / Vol.
GFX1 Exp. Type - GFX Exp. タイプ	Off / Momnt / Alt / Exp. / Vol.
Ctrl. Vol. Type - CTRL Vol. タイプ	Off / Momnt / Alt / Exp. / Vol.
Ctrl. Exp. Type - CTRL Exp. タイプ	Off / Momnt / Alt / Exp. / Vol.
Vol. Master - Vol. マスター	Preset / Global
Exp. Master - Exp. マスター	Preset / Global
GFX1 Vol. Cal.	—
GFX1 Exp. Cal.	—
Ctrl. Vol. Cal.	—
Ctrl. Exp. Cal.	—

略語解説：

Vol.	ボリューム・ペダル端子
Exp.	エクスプレッション・ペダル端子
GFX1	GFX01
Ctrl.	コントロールボード
Calib.	キャリブレーション
Pot	ポテンションメーター（エクスプレッション・ペダル等）
Momnt	モメンタリー（アンラッチ）・ペダル/スイッチ
Alt	オルタネイティング（ラッチ）・ペダル/スイッチ

Volume Ctrl. - ボリューム・コントロール

最初の画面は、ボリューム・コントロールのパラメーターを表示します。



G-System のボリュームは、GFX01 とコントロールボードそれぞれの「Vol」または「Exp」端子に接続されたエクスプレッション・ペダルで外部コントロールできます。設定の選択肢は、次の通りです：

- **None**: エクスプレッション・ペダルでボリュームをコントロールしません。
- **Vol.**: GFX01 とコントロールボードいずれかの Vol.端子に接続したエクスプレッション・ペダルでボリュームを調節します。
- **Exp.**: GFX01 とコントロールボードいずれかの Exp.端子に接続したエクスプレッション・ペダルでボリュームを調節します。
- **Enc A**, **Enc B**, **Enc C**: A / B / C いずれかのエンコーダーでボリュームを調節します。



Volume Ctrl.パラメーターによるボリューム調節は、エフェクトの前後いずれかを指定できます。この設定は、LEVELS メニューで行ないます。詳細は、本セクションの Volume Position についての記載をご参照ください。

GFX1 Vol. Type / GFX1 Exp. Type / Ctrl. Vol. Type / Ctrl. Exp. Type - ペダル・タイプ

この4つのパラメーターで、各エクスプレッション・ペダル端子に接続した機器のタイプを指定します。

- **Pot.** (ポット) : ボリュームやエクスプレッション・ペダルなど、ポテンションメーターを内蔵したペダルを指します。
- **Momnt** (モメンタリー) : 押している間のみ ON になる、キーボード用のサステイン・ペダルなどのアンラッチ・タイプのスイッチを指します。
- **Alt** (オルタネイティング) : 押す毎に ON/OFF が切り替わる、ラッチ・タイプのスイッチを指します。

MENU モード PEDALS - ペダル・メニュー

Vol. Master / Exp. Master - Vol/Exp マスター

プリセットを変更した時に、特定のパラメーターをコントロールするペダルの位置は、そのプリセットに保存されているパラメーターの値と一致することは極めて稀です。その不一致を防ぐことはできませんが、このパラメーターで、プリセットを切り替えた際にどちらの値を優先させるかを指定します。

- **Preset** (プリセットの設定値を適用) : プリセットに保存されている設定を優先します。接続しているペダルの位置は無視されます。
- **Global** (グローバルの値を適用) : プリセット変更がなされるたびにエクスプレッション・ペダルの位置をチェックし、その位置に応じたパラメーターの値に変更します。そのため、プリセットに保存されている設定は無視されます。

例 :

プリセット 1 番ではエクスプレッション・ペダルにディレイのミックス・レベルを、プリセット 2 番では同じペダルにワーム効果のピッチを割り当てているとします。プリセット 2 番では、Pitch パラメーター (ピッチシフトの量) を 0% にしているとします。このような状態で、プリセット 1 番でペダルを踏み込んで、若干ディレイが得られるレベルー例えば 15% ーに調節したとします。

この状態でプリセットを 2 番に切り替えると、プリセット自体は Pitch が 0% になっていますが、ペダルは 15% の位置にあります。Exp Master は、プリセットを切り替えた際にどちらの設定を優先させるかを指定します。Global に設定するとペダルの位置が適用され、Preset に設定するとプリセットに保存されている 0% の値が優先されます。後者を使用した場合、その後にエクスプレッション・ペダルを踏み込んだ段階で、その設定が適用されます。



ボリューム・ペダルの設定は常にペダルを優先させたい、すなわちグローバルにしたい場合は、Vol. Master を Global に設定します。

エクスプレッション・ペダルのキャリブレーション

GFX1 Vol. Calib / GFX1 Exp. Calib /

Ctrl. Vol. Calib / Ctrl. Exp. Calib - キャリブレーション

エクスプレッション・ペダルは、各社より異なる抵抗値と曲線のものが発売されています。エクスプレッション・ペダルを G-System で使用する際には、次の手順でペダルのキャリブレーションを行なってからご使用ください。

キャリブレーション手順 :

- ペダルを G-System の VOL あるいは EXP 入力端子に接続します。
- 次の選択肢から、キャリブレーションを行なう端子を指定します。
GFX1 Vol. Calib./ GFX1 Exp. Calib./
Ctrl. Vol. Calib./ Ctrl. Exp. Calib.
- ENTER を押します。
- LCD に、「Set Min」と表示されます。
- ペダルを最小の位置 (かかと側) に設定し、ENTER を押します。



- LCD に、「Set Max」と表示されます。
- ペダルを最大の位置 (つま先側) に設定し、ENTER を押します。



- LCD に、「CALIBRATION DONE」と表示されます。キャリブレーションは完了です。

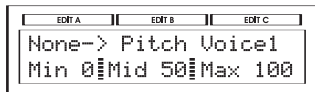
エクスプレッション・ペダルで特定の パラメーターをコントロールする

前セクションの指示に従ってエクスプレッション／ボリューム・ペダルを正しく設定・キャリブレートしたら、次にペダルがコントロールするパラメーターを指定します。

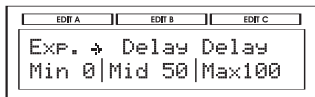
基本操作

- EDIT を押し、EDIT モードに入ります。
- ENTER を二度押します。すると、現在のプリセットで、接続されているペダルとエンコーダー A／B／C からコントロールできるパラメーターが表示されます。

画面には、次の様に表示されます：



- INPUT エンコーダーで、セットアップしたいエクスプレッション・ペダルを指定します。EDIT モードのエンコーダー A／B／C もリアルタイム・コントローラーとして使用できます。
- Vol.: GFX01 のリアパネルとコントロールボードいずれかの Vol.端子に接続したエクスプレッション・ペダルを指定します。
- Exp.: GFX01 のリアパネルとコントロールボードいずれかの Exp.端子に接続したエクスプレッション・ペダルを指定します。



- Enc A／Enc B／Enc C: EDIT モード時の A／B／C エンコーダーの割り当てを指定します。Vol と Exp 端子に接続したエクスプレッション・ペダル同様に、これらのエンコーダーを特定のパラメーターに割り当てることができます。
- Min／Mid／Max: エクスプレッション・ペダルの最小／中／最大ポジションの値を設定します。

例：

エンコーダー A を Delay Feedback（ディレイ・フィードバック）に割り当てたとします。すると、ソロや楽曲の終わりでフィードバックを 100% にすることにより、ヴィンテージ感溢れるノンストップ・リピートのトリッキーな効果が得られます。

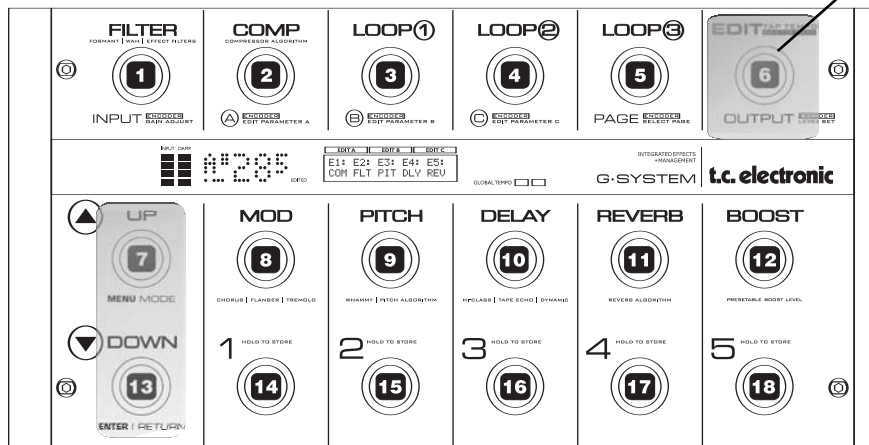
Enc A／Enc B／Enc C の設定

「エクスプレッション・ペダルで特定のパラメーターをコントロールする」セクションと同じ手順で設定します。エンコーダーは、キャリブレーションする必要はありません。

MENU モード SWITCHES - スイッチ・メニュー

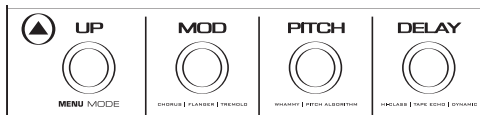
スイッチ番号図

固定（機能の変更不可）



フットスイッチについて

G-System の 18 のフットスイッチは、それぞれのスイッチの上下に記されている機能がデフォルトで割り当てられています。



ほとんどのスイッチは、機能を自由にカスタマイズすることができます*。

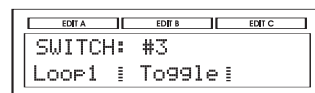
例：プログラム・チェンジのスイッチはデフォルトでは5つですが、他のスイッチをプログラム・チェンジに割り当てることができます。また、デフォルトではループ1～3をスイッチでON/OFFできますが、他のスイッチをループのON/OFFに割り当てることにより、5つのループ全てをスイッチでON/OFFできるようになります。

* EDIT と▲▼ (UP/DOWN) スイッチは、割り当てを他の機能に変更することはできません。

スイッチの機能をカスタマイズする

スイッチに割り当てられている機能をカスタマイズする手順は、次の通りです。

- EDIT を押し、EDIT モードに入ります。
- MENU を押し、PAGE エンコーダーで SWITCHES を選択します。
- ENTER を押します。
- 次の様な画面が表示されます。



- PAGE エンコーダーで、機能の割り当てを変更したいスイッチの番号を指定します。
- エンコーダー A で指定したスイッチの機能を選びます。
- エンコーダー B でスタイル（後述）を選択します。
- EDIT を押し、PLAY モードに戻ります。

MENU モード SWITCHES - スイッチ・メニュー

各スイッチは、その割り当て自体に加えて、スイッチの付加的な機能を調節するための、最低一つのパラメーターがあります。次の表は、設定できる機能を示します。

機能	スタイル	パラメーター 3
None	--	
Filter On/Off	Toggle / Hold	-
Comp On/Off	Toggle / Hold	-
Loop 1 On/Off	Toggle / Hold	-
Loop 2 On/Off	Toggle / Hold	-
Loop 3 On/Off	Toggle / Hold	-
Loop 4 On/Off	Toggle / Hold	-
Insert On/Off	Toggle / Hold	-
Relay	Toggle / Hold	-
Gate	Toggle / Hold	-
Boost On/Off	Toggle / Hold	-
Mod On/Off	Toggle / Hold	-
Pitch On/Off	Toggle / Hold	-
Delay On/Off	Toggle / Hold	-
Reverb On/Off	Toggle / Hold	-
EQ On/Off	Toggle / Hold	-
Preset	Bank:	none
	A0 ~ A9 (ファクトリー)	プリセット 1 ~ 5
	B0 ~ B9 (ファクトリー)	プリセット 1 ~ 5
	0 ~ 39 (ユーザー)	プリセット 1 ~ 5
Tempo	-	-
Tuner	Toggle / Hold	-
MIDI CC	#0 ~ 119	-

None - なし

何も割り当てられていない状態となります。

Toggle / Hold - トグル／ホールド

Toggle を選択すると、スイッチを押す度にパラメーター／エフェクトの ON/OFF が切り替わります。

Hold を選択すると、スイッチが押されている状態の時のみパラメーター／エフェクトが ON となり、スイッチを放すと OFF となります。



Hold は、特定のエフェクトを数秒だけ使用したい場合などに使用します。

Tempo - タップ・テンポ

G-System のグローバル・テンポをタップできます。

Tuner - チューナー・ミュート

チューナーを作動中に出力をミュートさせます。

Relay - リレー

Toggle 時にはスイッチを押す度にリレー・セッティング A/B を交互に切り替え、Hold 時にはスイッチを押している間だけセッティング B の状態となります。

Preset - プリセット

パラメーターを設定することにより、ファクトリーまたはユーザー・バンクから任意のプリセットを呼び出すことができます。スイッチに Preset を割り当てた場合は、2 つのパラメーターを設定します：

Bank:

バンクを選択します。「--」を選択した場合バンクの切替は自動的に行なわれず、バンクの変更は UP / DOWN スイッチで行ないます。

Preset 1 ~ 5:

スイッチを押した際に呼び出されるプリセットを設定します。

MIDI CC

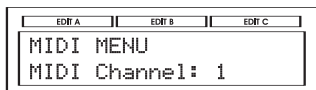
スイッチを押した際に、G-System の MIDI Out から MIDI CC (コンティニュアス・コントローラー) 0 ~ 127 番の信号が送信されます。

MENU モード MIDI メニュー

MIDI メニュー

基本操作

- EDIT と、次に MENU を押します。
- PAGE エンコーダーで MIDI を選択し、ENTER を押します。
- PAGE エンコーダーでパラメーターを選択します。
- エンコーダー C でパラメーターの値を変更します。



MIDI Channel - MIDI チャンネル

設定レンジ：OFF / 1 ~ 16 / OMNI

MIDI 受信チャンネルを設定します。OMNI を選択すると、全チャンネルの入力に反応します。OFF 選択時には、MIDI 入力に反応しません。

Prg. Change In - プログラム・チェンジ入力

設定レンジ：On / Off

受信した MIDI プログラム・チェンジ情報に応答するべきかどうかを指定します。

Prg. Change Out - プログラム・チェンジ出力

設定レンジ：On / Off

フットスイッチでプリセットをリコールした際に G-System の MIDI Out からプログラム・チェンジ情報を送信するかどうかを指定します。

Prg Map - プログラム・マップ

ユーザー・プリセットを呼び出した際に送信される MIDI プログラム・チェンジ番号 (1 ~ 128) を指定できます。

例：

「PrgMap: 00-2 to 6」と表示されている場合、G-System 側でバンク 0 のプリセット 2 番を選択すると、プログラム・チェンジ 6 番のデータが送信されます。

ファクトリー・バンクは、100 のプリセットから構成されます。ファクトリー・プリセットをリコールすると、1 ~ 100 のプログラム・チェンジ情報が MIDI OUT から出力されます。

Prg Map Reset - プログラム・マップ・リセット

ENTER を押すと、プログラム・マップがリセットされます。

SysEx ID - システム・エクスクルーシブ ID

設定レンジ：0 ~ 126

G-System の MIDI システム・エクスクルーシブ ID を指定します。

Dump System - ダンプ・システム

ENTER を押すと、システム全体をバックアップします。G-System の全ての基本的な設定とユーザー・プリセットの情報が MIDI データ・ダンプされます。

Dump Bank - ダンプ・バンク

Execute Dump (ダンプ実行) を行なうと、ユーザー・バンクの情報が MIDI データ・ダンプされます。

MIDI 経由のダンプ手順

- G-System の MIDI Out から MIDI シーケンス機の MIDI In に接続します。
 - シーケンサーを全ての MIDI チャンネルの情報を受信する設定 (Omni) にして、録音を始めます。
 - G-System 側でダンプする内容 (System で全てのデータ、Bank でバンク) を設定して、ENTER を押します。
- ※ 標準 MPU401 MIDI インターフェイスを搭載したコンピュータを推奨いたします。

外部 MIDI コントロール

外部 MIDI 機器からプリセットをリコールする

G-System のプリセット切替を外部機器から行なう場合は、バンク・セレクトの MIDI CC とプログラム・チェンジ情報を送ります。

バンク・セレクトの仕様は次の通りです：

ファクトリー・バンク	CC# = 0、値 = 0
ユーザー・バンク 1 ~ 100	CC# = 0、値 = 1
ユーザー・バンク 101 ~ 200	CC# = 0、値 = 2

UTILITY - ユーティリティ・メニュー

Tap Master - タップ・マスター

設定レンジ：Preset（プリセット）／Global（グローバル）
プリセットを変更した際に、テンポをプリセットの値に変更するか、グローバル・テンポを維持するかを指定します。

例：

500ms のテンポをグローバル・テンポとしてタップしたとします。次にリコールするプリセットがテンポに依存した効果を得るための350msのディレイ・タイムを持っているとします。Tap Master パラメータがPreset に設定されている場合、G-System はプリセットをリコールした際にディレイ・タイムをプリセットの値である350ms に変更します。Tap Master パラメータがGlobal に設定されている場合、G-System はプリセットに保存されている350ms の値を無視して、グローバルの500ms の値を採用します。

Insert Lock - インサート・ロック

設定レンジ：On／Off

インサート・ループの状態を、その後のプリセット変更に関わらず現状のまま固定させます。この機能は、接続しているブリアンプをONに固定させたい場合などに仕様します。

Lock 機能をONにすると、現在リコールされているプリセットのON/OFFの状態が全てのプリセットで適用されます。

Boost Lock - ブースト・ロック

ブースト・セクションのパラメータを固定させます。Lock 機能をONにすると、現在リコールされているプリセットのBoost 機能のON/OFF の状態が全てのプリセットで適用されます。

EQ Lock - EQ ロック

EQ セクションのパラメータを固定させます。Lock 機能をONにすると、現在リコールされているプリセットのEQ のON/OFF の状態が全てのプリセットで適用されます。

Relay Lock - リレー・ロック

リレーの設定を固定させます。Lock 機能をONにすると、その後プリセットを変更しても、リレーの状態は変わりません。しかしながら、リレーの状態をAとBの間で切り替わる様にスイッチをアサインすることは可能です。

例：

2チャンネルのアンプを使用していて、G-System のスイッチの一つでチャンネルが切り替わる様に設定したいとします。同時に、プリセットを変更した場合に、そのプリセットに保存されているリレーの状態に応じてチャンネルが自動的に変わってしまうのを防ぎたい場合に、リレー・ロックを使用します。

- 現在のプリセットで、Rel.A と Rel.B を、アンプの各チャンネルに該当する状態に合わせます。この作業は、EDIT → RELAYS メニューで行います。
- UTILITY メニューのRelay Lock パラメータをONにします。
- EDIT → SWITCHES メニューで、スイッチを「Relay」にアサインします。

Routing Lock - ルーティング・ロック

ルーティングを、このパラメータをONにした時点での設定に固定させます。エフェクトの間こえかたはルーティングによって変わるため、プリセットによっては、若干の調整が必要になる場合があります。

Factory Bank Lock - ファクトリー・バンク・ロック

設定レンジ：On／Off

ONにすると、ファクトリー・バンクはアクセスできなくなります。

View Angle - ユー・アングル

液晶ディスプレイのバックライトを見やすい様に調節します。

Clear System - システム・クリア

System と I/O の設定を全て工場出荷時の設定にリセットします。ユーザー・プリセットは変更されません。

Clear Bank - バンク・クリア

ユーザー・バンクの全てのプリセットを削除します。システム・パラメータは変更されません。

その他の機能 リレー機能: アンプのチャンネル・スイッチング

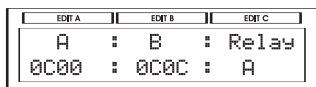
リレー機能: アンプのチャンネル・スイッチング

G-System は 2 つのステレオ・ジャック・コネクタで 4 つのリレーを装備しています。アンプやプリアンプのチャンネル・スイッチングを行えます。

RELAY - リレー・メニュー

操作概要

- EDIT を押し、PAGE エンコーダーで RELAYS を選択します。
- ENTER を押します。



A / B 設定

プリセット毎に、リレーの状態を 2 つ記憶させることができます。そのため、同じプリセットの中で、フットスイッチを押すことによりアンプのチャンネル・スイッチングを行えます。これは、アンプの状態毎に別のプリセットを用意する手間を省きます。

Relay - リレー

設定レンジ：A / B

プリセットを変更した際に、どちらのリレー・セッティングを使用するかを指定します。

各端子の選択肢は次の通りです：

- オープン（開）
- チップグラウンド
- リンググラウンド
- チップとリンググラウンド

次の状態を指定できます：

1	O O O O	9	C O O C
2	C O O O	10	O C O O
3	O C O O	11	O C C O
4	C C O O	12	O C C C
5	C C C O	13	O C O C
6	C C C C	14	O O C O
7	C O C O	15	O O C C
8	C O C C	16	O O O C

O = OPEN（開）
C = CLOSED（閉）

あらゆるアンプの回路図をここに表記することはできませんが、上記の選択肢のうちいずれかがアンプの特定のチャンネルに割り当てられているはずです。正しい設定がわからない場合は、順番に設定を試してください。お持ちのアンプによりますが、たとえばこのような組み合わせでチャンネルを指定できます：

O O O O = クリーン・チャンネル

O C O O = クランチ

C C O O = ドライブ・チャンネル

www.tcelectronic.com の Support セクションでは、いくつかのポピュラーなアンプの回路図が掲載されています。そこにお持ちのアンプ・タイプがない場合は、アンプのマニュアルをご参照いただくか、アンプの製造元に詳細をご確認ください。

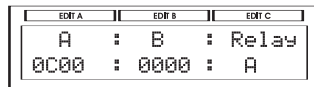
設定例

次の前提で設定方法の例を示します：

- クリーンとリードの 2 チャンネル構成の一般的なコンボ・アンプを使用しているとします。
- アンプ側のクリーンとリード・チャンネルのスイッチング用の端子は標準ステレオ・ジャックだとします。
- クリーン・チャンネルを使用したプリセットと、リード・チャンネルを使用したプリセットの二つを作成したいとします。

設定方法：

- GFX リアパネルの SW OUT 1 または SW OUT 2 端子からアンプのスイッチング用端子に、1/4" 端子のステレオステレオ・ケーブルを接続します。
- アンプのクリーン・チャンネルを組み合わせたプリセットをリコールします。
- アンプ側がクリーン・チャンネルに選択されるまで Rel.A の組み合わせを試します。
- Relay パラメーターを A に設定し、プリセットを保存します。



上記の A の設定は一つの可能性であり、必ずしもご使用のアンプでクリーン・チャンネルが得られるとは限りません。正しい設定は、アンプの機種によって異なります。

その他の機能 リレー機能: アンプのチャンネル・スイッチング／チューナー

- アンプのリード・チャンネルを組み合わせたいプリセットをリコールします。
- Rel.Aの組み合わせを順番にスクロールします。今回は、アンプのリード・チャンネルが選択されたところで停止します。
- RelayパラメーターをAに設定します。

リード・チャンネルの設定は、次のようになるかもしれません。

EDIT A	EDIT B	EDIT C
A	B	Relay
CC00	0000	A

- プリセットを保存します。

「B」オプションの活用法

前述の通り、プリセット毎に、リレーの状態は2つ記憶させることができます。G-Systemのスイッチをリレーに割り当てることにより、同じプリセットから、フットスイッチを押すことによりアンプのチャンネル・スイッチングを行えます。アンプのスイッチングはToggleとHoldを選べるため、スイッチを押した度に切り替わる(Toggle)か、またはスイッチを押している間だけ2つ目の設定になるか(Hold)を選択できます。

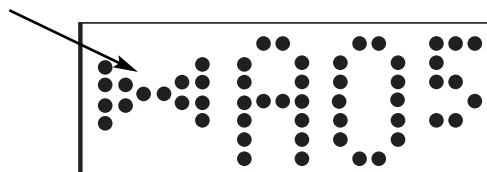
G-Systemでは、プリセットを切り替えた際に、アンプ側を任意のチャンネルに設定することができます。プリセットが切り替わった後は、さらにプリセットを切り替えることを必要とせずに、G-Systemのスイッチからアンプのチャンネルを切り替えることも可能です。

スイッチをこの用途に使用したい場合の設定方法は、「スイッチのカスタム設定」セクションをご参照ください。

チューナー表示

PLAYモード時のチューナー表示

PLAYモードでは、演奏されている音程のピッチは二つの矢印(三角)で示されます。両方の矢印が点灯している場合、チューニングが正確であることを示します。片方の矢印しか点灯しない場合は、ピッチが上下片方にずれています。右の矢印が点灯している場合は、ピッチが高過ぎます。左の矢印が点灯している場合、チューニングは低過ぎます。



チューナー・モード時のチューナー表示

チューナー・モードでは、画面全体がピッチの表示に使われます。

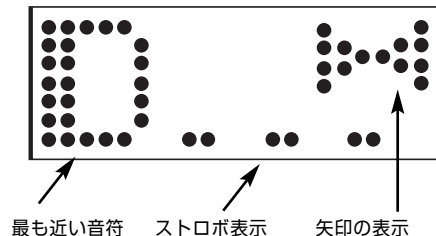
チューナー・モードの起動

- EDITを約2秒間長押しします。
- EDITを再度押すと、チューナー・モードは終了します。

チューナー・モードでは、ピッチが3方法で表示されます。

- 最も近い音符
- 画面下部のストロボ・バー表示
- 対になっている2つの矢印

音程が正確な場合、両方の矢印が点灯し、ストロボが揺れない状態となります。



最も近い音符 ストロボ表示 矢印の表示

その他の機能 チューナー / タップ・テンポ

チューナー・モード

基本操作

- EDIT を約 2 秒間長押しすると、TUNER モードに入ります。
- PAGE エンコーダーでパラメーターを選択します。
- エンコーダー A / B / C でパラメーターの値を変更します。

Output - アウトプット

設定レンジ：Mute / On

TUNER モード時の出力を設定します。Mute にすると、TUNER モードに入った際に、G-System の出力がミュートされます。エクスプレッション・ペダルでボリューム・コントロールを行わない場合などに便利です。

Display - ディスプレイ

G-System のチューナーは、赤いチューナーの下部とプリセット番号表示部の、二種類の表示モードを持ちます。

Bar - バー表示

チューニングが不正確だと、チューナー・ディスプレイの底にバーが表示されます。バーが長い程、ずれ幅が大きいことを示します。

Strobe - ストロボ表示

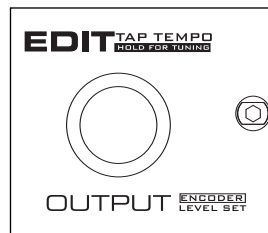
Strobe モードでは、音程の高低によって二つの点が左右いずれかに動きます。チューニングが正確だと、点の移動が停止します。

Reference - 基準ピッチ

設定レンジ：420 ~ 460 Hz

チューナーの基準ピッチを指定します。デフォルトの設定は 440 Hz です。

タップ・テンポ



タップ・テンポ機能は、スイッチを繰り返し押すことにより、グローバル・テンポを指定することを可能とします。タップ・テンポは最低 2 回、最大 10 回までのタップの平均的な間隔で決定されます。

タップ・テンポは、常にミリセカンド (ms) と BPM で表示されます。

EDIT A	EDIT B	EDIT C
BPM	TEMPO	TIME
94		638ms

タップは、最小で 200ms、最大で 2000ms までの間隔を受け付けます。

グローバル・タップ・テンポは、該当するエフェクト・ページのテンポ関連のパラメーターを指定します。詳細は、本マニュアルのエフェクト・セクションをご参照ください。

テンポは、タップする以外にも、テンポのメニューが表示されている間にエンコーダー A と C で調節できます。



2 秒以内に TAP TEMPO を 2 回押すと、TEMPO モードに入ります。他のスイッチを押すと、TEMPO モードは終了します。

エフェクト

本セクションでは、G-System の搭載するエフェクトとそのパラメーターを解説します。G-System のメニューの操作方法については、各メニューの操作方法に関する前述のセクションをご参照ください。

FILTER - フィルター

概要

FILTER ブロックでは、次のエフェクト・タイプが使用できます。タイプによって、フィルターの特性をエキスポレッション・ペダルや演奏のダイナミクスで変えたり、LFO で変調させることができます。

- | | |
|--------------------|------------------|
| • Resonance Filter | レゾナンス・フィルター |
| • Touch Res Filter | タッチ・レゾナンス・フィルター |
| • Auto Res Filter | オート・レゾナンス・フィルター |
| • Wah Wah | ワウワウ |
| • Touch Wah | タッチ・ワウ |
| • Auto Wah | オート・ワウ |
| • Formant Filter | フォルマント・フィルター |
| • Touch Formant | タッチ・フォルマント・フィルター |
| • Auto Formant | オート・フォルマント・フィルター |

Resonance Filter - レゾナンス・フィルター

レゾナンス・フィルターは、基本的に、可変的な Q ファクター（レゾナンス）を持ったハイカット・フィルターであると解釈できます。Resonance (Q) の値を上げると、カットオフ周波数におけるピークが狭く、かつ鋭くなり、特徴的なサウンドを形成します。

Style - スタイル

設定レンジ：2nd / 4th

フィルターの鋭さを設定します。2 次フィルターは 12dB / オクターブ、4 次フィルターは 24dB / オクターブです。4 次フィルターは、2 次フィルターより極端なレゾナンス効果を生じます。

HiCut - ハイカット周波数

レンジ：160 Hz ~ 14 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。

Resnce (Resonance) - レゾナンス

レンジ：0 ~ 100%

ハイカット・フィルターのレゾナンス量を設定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100 dB ~ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

エフェクト FILTER - フィルター

Touch Res Filter - タッチ・レゾナンス・フィルター

タッチ・レゾナンス・フィルターは、タッチ・ワウの様な効果を生成します。周波数レンジのスイープは入力ダイナミクスに連動します。

タッチ・レゾナンス・フィルターは、レゾナンス・フィルターの全パラメーターに加え、次のパラメーターが用意されています。

Sense - センシティビティ

設定レンジ：0 ～ 10

効果の強弱の感度を設定します。センシティビティは、FILTER ブロックの入力レベルに合わせて設定します。低い設定では、より強かないと効果が明確になりません。

Resp - レスポンス

設定レンジ：Slow ／ Fast

効果の速度（レスポンス・タイム）を指定します。

Fmax (Frequency Max) - 最大周波数

設定レンジ：1 kHz ～ 10 kHz

スイープのレンジを指定した周波数内に制限します。レンジ全体にスイープさせると、通常は高い音程では効果がきつくなり過ぎるため、ここで最大周波数を制限することにより、効果を若干やわらげることができます。一般的には、2kHz ～ 4kHz の間に設定します。

Auto Res Filter - オート・レゾナンス・フィルター

オート・レゾナンス・フィルターは、レゾナンス・フィルターの全パラメーターに加え、次のパラメーターが用意されています。

Speed - スピード

設定レンジ：50 mHz ～ 20 Hz

エフェクトのスピードを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視）／2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

Shape - 形状

設定レンジ：Tri（三角）／Sine（サイン）

波形を指定します。Tri は鋭角なピーク・ポイントを持ちます。サインはよりスムーズなシフトを行ないます。

Fmax (Frequency Max) - 最大周波数

設定レンジ：1kHz ～ 10kHz

スイープのレンジを指定した周波数内に制限します。レンジ全体にスイープさせると、通常は高い音程では効果がきつくなり過ぎるため、ここで最大周波数を制限することにより、効果を若干やわらげることができます。一般的には、2kHz ～ 4kHz の間に設定します。

Wah Wah - ワウワウ

このエフェクト・タイプでは、エクスプレッション・ペダルを Sweep パラメーターに割り当てることにより、手動でエフェクトをコントロールする単体ワウ・ペダルと同様の効果を得られます。このワウ・エフェクトを使ったファクトリー・プリセットを選択すると、EXP 端子に接続されたエクスプレッション・ペダルは自動的にこのパラメーターをコントロールする様に設定されています。

Sweep - スイープ周波数

設定レンジ：0 ～ 100%

エクスプレッション・ペダルをこのパラメーターに割り当てることにより、ワウ・ペダルとして使用できます。

Range - レンジ（楽器モード）

設定レンジ：Low / High

使用する楽器によって、ワウ効果の適切な周波数レンジは異なります。このパラメーターは、ワウ効果の周波数レンジを設定します。

AutoOn - オート・オン

設定レンジ：Off / 0.3 s ～ 10 s / Inf（無限）

OFF 以外の設定にすると、Sweep パラメーターに割り当てたエクスプレッション・ペダルを動かした際に自動的に効果が ON になります。エクスプレッション・ペダルの移動を止めた場合には、指定した時間が経過すると自動的に OFF に戻ります。Inf の設定では、ON の状態が維持されます。

いわゆる「半止め」の効果を活用したい場合は、このパラメーターを OFF にします。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Touch Wah - タッチ・ワウ

比較的狭い周波数帯域をブーストし、レンジ内をスイープします。スイープは入力ダイナミクス（強弱）でコントロールします。すなわち、より強く演奏することにより、ブーストされる周波数が高くなります。

Sense - センシティブティ

設定レンジ：0 ～ 10

効果の強弱の感度を設定します。センシティブティは、入力レベルに合わせて設定します。タッチ・ワウの前のエフェクトの出力レベルが揃っていないと、タッチ・ワウの設定を変更しなくても効果が異なることとなりますので、ご注意ください。

Resp - レスポンス

設定レンジ：Slow / Fast

効果の速度（レスポンス・タイム）を指定します。

Range - レンジ（楽器モード）

設定レンジ：Low / High

使用する楽器によって、タッチ・ワウ効果の適切な周波数レンジは異なります。このパラメーターは、タッチ・ワウ効果の周波数レンジを設定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

エフェクト FILTER - フィルター

Auto Wah - オート・ワウ

比較的狭い周波数帯域をブーストし、レンジ内をスイープします。スイープは LFO（低周波数発振器）によりコントロールされます。

Speed - スピード

設定レンジ：50 mHz ～ 20 Hz

エフェクトのスピードを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視）／2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

Shape - 形状

設定レンジ：Tri（三角）／Sine（サイン）

周波数ブーストの波形を指定します。



Range - レンジ（楽器モード）

設定レンジ：Low ／ High

使用する楽器によって、オート・ワウ効果の適切な周波数レンジは異なります。このパラメーターは、オート・ワウ効果の周波数レンジを設定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off ／ On

エフェクトの ON ／ OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Formant Filter - フォルマント・フィルター

概要

フォルマント・フィルターは、特殊なエフェクトです。フォルマントとは、人間の声の母音の特徴を示します。ワウではその名称通り「ワウワウ」というのに対して、フォルマント・フィルターは「ウーイーアー」といった効果を得られます。

エクスプレッション・ペダルを Sweep パラメーターに割り当てることにより、ペダルから母音の間を移動できます。

Low ／ Mid ／ High - ロー／ミッド／ハイ

設定レンジ：Heat ／ Hit ／ Head ／ Had ／ But ／ Father ／ All ／
Boot ／ Foot ／ Bird

エフェクトの低中高のポジションで得られる音の種類を選択します。パラメーターの名称は、近い発音を持つ単語となっています。

Sweep - スイープ

設定レンジ：0 ～ 100%

エクスプレッション・ペダルをこのパラメーターに割り当てることにより、ペダルでフォルマント・フィルターをコントロールできます。

Bright - ブライト

設定レンジ：0 ～ 100%

エフェクトの高周波数を調節します。Low ／ Mid ／ High の設定によって、好みの値に設定します。

Resnce (Resonance) - レゾナンス

設定レンジ：0 ～ 100%

フィルターを強調します。特定の母音との組み合わせではきわめてきついサウンドとなりますので、設定は慎重に行なうことをお勧めします。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off ／ On

エフェクトの ON ／ OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Touch Formant - タッチ・フォルマント

タッチ・フォルマント・エフェクトでは、タッチ・ワウの様に、フィルターが入力のダイナミクスによりコントロールされます。

タッチ・フォルマント・フィルターは、フォルマント・フィルターの全パラメーターに加え、次のパラメーターが用意されています。

Sense - センシティビティ

設定レンジ：0 ～ 10

効果の強弱の感度を設定します。プリセットの基本的なレベルに合わせて設定します。

Resp (Response) - レスポンス

設定レンジ：Slow / Fast

効果の速度（レスポンス・タイム）を指定します。

Auto Formant - オート・フォルマント

オート・フォルマント・フィルターは、フォルマント・フィルターの全パラメーターに加え、次のパラメーターが用意されています。

Speed - スピード

設定レンジ：50 mHz ～ 20 Hz

エフェクトのスピードを調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視） / 2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。

Shape - 形状

設定レンジ：Tri（三角） / Sine（サイン）

周波数ブーストの波形を指定します。

Bright - ブライト

設定レンジ：0 ～ 100%

エフェクトの高周波数を調節します。Low / Mid / High の設定によって、好みの値に設定します。

エフェクト COMPRESSOR - コンプレッサー

COMPRESSOR - コンプレッサー

概要

コンプレッサーは、信号のダイナミクス（音量の強弱）をコントロールするためのエフェクトです。信号のダイナミクスを均一化させてギター・サウンドをより明確に聴こえる様にしたり、もっとラディカルで特徴的なエフェクトを得ることもできます。G-System は 3 種類のコンプレッションを選択でき、目的に応じて適切なサウンドをより素早く得ることを可能としています。

Advanced Compressor - アドバンス・コンプレッサー

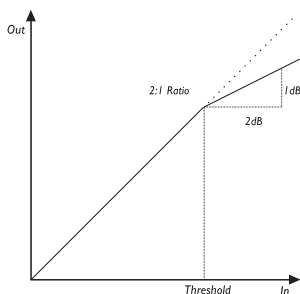
一般的なコンプレッションの詳細なパラメーターを調節できます。

Sustaining / Percussive Compressor -

サステイン／パーカッシブ・コンプレッサー

パラメーターの構成が簡略化され、より素早く設定を行えます。サステイン・コンプレッサーは極端なコンプレッションに、パーカッシブ・コンプレッサーはリミッティングの用途に適しています。

コンプレッション概要図



図の通り、入力信号がスレッシュホールド・ポイントを超えると、出力は指定したレシオの比率に応じて信号のアッテネートされます（すなわち、増加が抑えられます）。アタック・パラメーターはアッテネーションが得られるまでの速度を指定します。コンプレッションは音量の増加を抑えるため、そこで失われた全体的な音量はゲイン・パラメーターで補正します。

Advanced Compressor - アドバンス・コンプレッサー

このモードでは、全てのパラメーターを個別に調節できます。

Thres (Threshold) - スレッシュホールド

設定レンジ：-40 dB ~ 0 dB

入力がこの値を超えると、コンプレッサーが作動します。スレッシュホールドを超えた信号は、レシオ／アタック／リリースで設定された特性に合わせてプロセスされます。

Ratio - レシオ

設定レンジ：Off / 1.12:1 ~ inf (無限) :1

レシオの設定値は、信号の圧縮の強さを示します（上図参照）。

例：2:1 にレシオを設定した場合、入力がスレッシュホールド値から 4dB 上がると、出力は 2dB 上がります。inf の設定では、リミッターとして作動します。

Attack - アタック

設定レンジ：1.0 ms ~ 140 ms

コンプレッサーが反応するのにかかる時間です。アタック・タイムが短いほど、信号がスレッシュホールド値を超えてから指定レシオに圧縮されるまでの時間が短くなります。

Release - リリース

設定レンジ：50 ms ~ 2.0 s

入力信号がスレッシュホールド値を下回った際に、コンプレッサーがゲイン・リダクションを「解放」し、入出力レベルの比率が 1:1 に戻るまでの時間です。

Gain - ゲイン

設定レンジ：-12 ~ +12 dB

ゲインを調節します。コンプレッションによって変動したレベルの補正に使用します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Sustaining / Percussive Compressor - サステイン／パーカッシブ・コンプレッサー

サステインとパーカッシブ・コンプレッサーは、アドバンス・モードに比べてパラメーターの数が簡略化されております。適切なチューニングを行なうことにより、一般的なスタイルのコンプレッションを容易に得られます。

Sustaining Compressor は、音を極度に潰すことなく、サステインを得られます。

Percussive Compressor は、多くのコンパクト・エフェクトなどに代表される、特徴で効果が明確な、強いコンプレッションを得られます。

この2つのモードは異なるチューニングが施されていますが、パラメーターは共通となっています。

Drive - ドライブ

設定レンジ：1 ～ 20

スレッシュホールドとレシオを同時に調節し、総合的なコンプレッションの量を調節します。自動的にメイクアップ・ゲインが施されますが、極端な設定では、Gain パラメーターでレベルをファインチューンする必要があるかもしれません。

Resp (Response) - レスポンス

設定レンジ：1 ～ 10

コンプレッサーがゲイン・リダクションを「解放」するまでの時間を指定します。設定が低いほど、コンプレッションが明確になります。

Gain - ゲイン

設定レンジ：-12 ～ 12 dB

ゲインを調節します。Drive と Resp の設定に応じて、レベルの補正に使用します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

エフェクト MOD - モジュレーション

MOD - モジュレーション

概要

MOD ブロックでは、モジュレーション系のエフェクト・タイプが使用できます。

- | | |
|--------------------|--------------|
| • Classic Chorus | クラシック・コーラス |
| • Advanced Chorus | アドバンス・コーラス |
| • Classic Flanger | クラシック・フランジャー |
| • Advanced Flanger | アドバンス・フランジャー |
| • Vibrato | ビブラート |
| • Vintage Phaser | ヴィンテージ・フェーザー |
| • Smooth Phaser | スムーズ・フェーザー |
| • Tremolo | トレモロ |
| • Panner | パンナー |

CHORUS - コーラス

概要

G-System は、Classic（クラシック）と Advanced（アドバンス）の、2 種類のコーラスを搭載しています。後者では、いくつかの追加パラメーターが用意されており、より詳細な設定が行えます。

コーラスは、基本的に、原音を 2 系統に分割して片方の音程を変調させる効果です。

Classic Chorus - クラシック・コーラス

Speed - スピード

設定レンジ：50 mHz ～ 20Hz

コーラスの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視）／2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。



UTILITY メニューの Tap Master パラメーターで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメーターのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ～ 100%

コーラスの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

HiCut - ハイカット

設定レンジ：20 Hz ～ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスないし出力レベルを下げてもコーラス効果が思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ～ 100%

ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Advanced Chorus - アドバンス・コーラス

アドバンス・コーラスは、クラシック・コーラスの全パラメーターに加え、次のパラメーターが用意されています。

Cho DI (Chorus Delay) - コーラス・ディレイ

設定レンジ：0 ～ 50 ms

先に述べたように、コーラス／フランジャーは基本的には LFO 変調されたディレイです。このパラメータで、そのディレイの長さを調節できます。典型的なコーラスが使用するディレイの長さは約 10ms、フランジャーは 5ms 前後です。



コーラスの本来の使い方ではありませんが、ディレイを 30 ～ 50ms と長めに設定することにより、スラップバック効果を意図的に活用することができます。

Ratio (Golden Ratio) - ゴールデン・レシオ

設定レンジ：Off / On

ゴールデン・レシオは、スピードとデプスの相互関係を自動的に調節し、片方のパラメータを調節した際にもう片方を自動的に補正することにより、聴感上のコーラスの強さを一定に保つ機能です。この機能は、名機 TC 2290 から継承されています。

PhaRev (Phase Reverse) - フェーズ反転

設定レンジ：Off / On

エフェクト信号の右チャンネルの位相を反転させます。この機能は、ステレオ・イメージを広げるのに有効です。

FLANGER - フランジャー

概要

フランジャーはコーラスと同じ血管を持ったモジュレーション・エフェクトです。原音は 2 系統に分割され、片方の音程が変調されます。

フランジャーは、信号の一部に若干のディレイを施し、エフェクトの入力にフィードバックすることにより、その独特なサウンドを生成します。その効果の幅を確認するには、フィードバックの値をお試しください。

Classic Flanger - クラシック・フランジャー

Speed - スピード

設定レンジ：50 mHz ～ 20Hz

フランジャーの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore (無視) / 2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。



UTILITY メニューの Tap Master パラメーターで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメーターのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ～ 100 %

エフェクトの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

HiCut - ハイカット

設定レンジ：20 Hz ～ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じ、ミックスないし出力レベルを下げて効果も思う様に低減されない場合は、このパラメータを試してみてください。

FeedB (Feedback) - フィードバック

設定レンジ：-100 ～ 100 %

エフェクトの出力から入力に循環させるフィードバック信号の量を調節します。フィードバック値が大きすぎる (90 ～ 95 % 以上) と、内部フィードバックにより発信ノイズが発生する可能性がありますので、大きな音量で試すときには注意してください。パラメータの値をマイナスの値に設定すると、アルゴリズムの入力にフィードバックされる信号の位相が反転します。

エフェクト MOD - モジュレーション

FB Cut (Feedback Highcut) - フィードバック・ハイカット

設定レンジ：20 Hz ～ 20 kHz

Feedback パラメーターの設定によって生じるレゾナンス成分の高周波をアッテネートさせます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ～ 100%

ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Advanced Flanger - アドバンス・フランジャー

アドバンス・フランジャーは、クラシック・フランジャーの全パラメーターに加え、次のパラメーターが用意されています。

Fla DI (Flanger Delay) - フランジャー・ディレイ

設定レンジ：0 ～ 50 ms

先に述べたように、コーラス／フランジャーは基本的には LFO 変調されたディレイです。このパラメータで、そのディレイの長さを調節できます。典型的なコーラスが使用するディレイの長さは約 10ms、フランジャーは 5ms 前後です。

Ratio (Golden Ratio) - ゴールデン・レシオ

設定レンジ：Off / On

ゴールデン・レシオは、スピードとデプスの相互関係を自動的に調節し、片方のパラメータを調節した際にもう片方を自動的に補正することにより、聴感上のコーラスの強さを一定に保つ機能です。この機能は、名機 TC 2290 から継承されています。

PhaRev (Phase Reverse) - フェーズ反転

設定レンジ：Off / On

エフェクト信号の右チャンネルの位相を反転させます。この機能は、ステレオ・イメージを広げるのに有効です。

Vibrato - ビブラート

概要

ビブラートは入力信号のピッチを変調します。得られる結果は、ボーカリストのビブラート・テクニックに似ています。コーラスとは異なり、ピッチ変調音に対して元の信号は加えません。



Speed - スピード

設定レンジ：50 mHz ～ 20Hz

ビブラートの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視）／ 2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。



UTILITY メニューの Tap Master パラメーターで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメーターのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ～ 100%

エフェクトの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

HiCut - ハイカット

設定レンジ：20 Hz ～ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。効果が強すぎると感じる場合は、このパラメータを試してみてください。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off ／ On

エフェクトの ON ／ OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

エフェクト MOD - モジュレーション

Vintage Phaser & Smooth Phaser - ヴィンテージ & スムーズ・フェーザー

概要

G-System は 2 種類のフェーザーを搭載しています。ヴィンテージ・フェーザーは、古いコンパクト・エフェクトに似たフェーシング効果をもたらします。スムーズ・フェーザーはより繊細で、薄い効果を軽くかけるときに優れた性能を発揮します。

ヴィンテージ・フェーザーは 4 つのオールパス・フィルタを使用しています。それがコム・フィルタ的な特性を持ち、エフェクト音がドライ音とミックスされることにより、独特な位相感が得られます。

スムーズ・フェーザーでは 12 のオールパス・フィルタを使用しています。フィルタ数多くを使用することにより、ヴィンテージ・フェーザーよりも滑らかなサウンドが得られます。

両タイプのフェーザーは、共通のパラメーターと設定レンジを持ちます。タイプ間の差は、フェーザーの核となるフィルタ数の差にあります。

Speed - スピード

設定レンジ：50 mHz ~ 20Hz
ビブラートの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視）／2 ~ 1/32T
2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。



UTILITY メニューの Tap Master パラメーターで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメーターのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ~ 100%
エフェクトの深さを調節します。値は、変調波形の振幅を示します。

Fb (Feedback) - フィードバック

設定レンジ：-100 ~ 100 %
フェーザーのフィードバック量を調節します。パラメータの値をマイナスの値に設定すると、アルゴリズムの入力にフィードバックされる信号の位相が反転します。

Range - レンジ

設定レンジ：Low / High
フェーザー効果の重心となる周波数帯域を指定します。

Rev (Reverse) - フェーズ反転

設定レンジ：Off / On
エフェクト信号の右チャンネルの位相を反転させます。この機能は、ステレオ・イメージを広げるのに有効です。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%
ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ~ 0dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On
エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Tremolo - トレモロ

概要

トレモロは基本的に LFO によってレベルを変調する効果です。G-System ではソフトで滑らかなものからハードでアグレッシブなものまで幅広いトレモロが得られます。

Speed - スピード

設定レンジ：50 mHz ～ 20Hz

トレモロの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視）／2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。



UTILITY メニューの Tap Master パラメーターで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメーターのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ～ 100%

エフェクトの深さを調節します。100% の設定では、信号のピークの間で音が完全にミュートされます。

Type - タイプ

設定レンジ：Soft（ソフト - サイン）／Hard（ハード - 矩形）

トレモロの曲線には2種類あります。Hard はより強い効果が得られます。実際に違いを耳で聞いてみてください。

サイン波



矩形波



Width - ワイズ

設定レンジ：0 ～ 100%

LFO 波形のパルス幅を制御します。たとえば Type が Hard の設定でこの設定値が20%の場合は、トレモロは80%の間、ON となります。Type が Soft の場合、この設定が50%でサイン波が得られ、0%では下から上に向かう波形、100%では上から下に向かう波形となります。

パルスワイズ



HiCut - ハイカット

設定レンジ：20 Hz ～ 20 kHz

この値より高い周波数のレベルを減少させます。Depth の設定を変更することなく効果を和らげるには、このパラメータを試してみてください。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off ／ On

エフェクトの ON ／ OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

エフェクト MOD - モジュレーション

Panner - パンナー

概要

信号を左右チャンネル間に揺らします。

Speed - スピード

設定レンジ：50 mHz ～ 20Hz

パンナーの速度を調節します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視）／2 ～ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は3連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。



UTILITY メニューの Tap Master パラメーターで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメーターのいずれを適用するかを指定できます。

Depth - デプス

設定レンジ：0 ～ 100%

エフェクトの深さを調節します。100% の設定では、完全に左から完全に右まで振られます。ほとんどの場合においては、極端すぎない設定の方が全体のサウンドに馴染み、良好な結果が得られます。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off ／ On

エフェクトの ON ／ OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

PITCH - ピッチ

概要

PITCH ブロックでは、ピッチを変更するピッチ系のエフェクト・タイプが使用できます。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| • Pitch Shifter | ピッチシフター |
| • Octaver | オクターバー |
| • Whammy | ワーマー |
| • Detune | ディチューン |
| • Intelligent Pitch Shifter | インテリジェント・ピッチシフター |

Pitch Shifter - ピッチシフター

概要

ピッチ・シフターは、信号に特定の音程をずらした音を加えます。G-System のピッチ・シフターは、原音に対して2ヴォイス分、それぞれ最大1オクターブずらした音を加えられます。G-System の処理速度は、ピッチ検出にかかる遅延を気にすることなく使用でき、かつてのオクターバーと比べ物にならないほど高速です。たとえば、1つのヴォイスを-1200セント下げてみてください（100セント＝半音）。ミックス・レベルを100にすれば、ベースのシミュレーションになります。

Voice1 - ヴォイス1

設定レンジ：-1200～1200 Cent（セント）

ヴォイス1の、ピッチ・シフト量を指定します。100セントは半音なので、入力ピッチの1オクターブ下から1オクターブ上まで音程を指定できます。

Voice2 - ヴォイス2

設定レンジ：-1200～1200 Cent（セント）

ヴォイス2の、ピッチ・シフト量を指定します。100セントは半音なので、入力ピッチの1オクターブ下から1オクターブ上まで音程を指定できます。

Pan1 - パン1

設定レンジ：-50～50

ヴォイス1の左右位置を指定します。マイナスの値は左、プラスは右です。

Pan2 - パン2

設定レンジ：-50～50

ヴォイス2の左右位置を指定します。マイナスの値は左、プラスは右です。

Delay1 - ディレイ1

設定レンジ：0～350ms

ヴォイス1のディレイ・タイムです。

Delay2 - ディレイ2

設定レンジ：0～350ms

ヴォイス2のディレイ・タイムです。

エフェクト PITCH - ピッチ

Fb1 - フィードバック 1

設定レンジ：0 ～ 100%

ヴォイス 1 のディレイ成分の反復量を指定します。

Fb2 - フィードバック 2

設定レンジ：0 ～ 100%

ヴォイス 2 のディレイ成分の反復量を指定します。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ～ 100%

ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Octaver - オクターバー

オクターバーは、原音にオクターブ音程をずらした音を加えます。

Dir (Direction) - ディレクション (方向)

設定レンジ：Down / Up

原音に対してのオクターバーの音程を、上下で指定します。

Range - レンジ

設定レンジ：1 Oct / 2 Oct

原音に対してのオクターブ差を指定します。オクターブの上下の指定は、Dir パラメーターで行ないます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ～ 100%

ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Whammy - ワーミー

外部エキスプレッション・ペダルから音程をコントロールできます。ワーミー・エフェクトを使ったファクトリー・プリセットをリコールした場合、EXP. PEDAL IN 端子に接続されたペダルは自動的に Pitch パラメーターに割り当てられ、ワーミー・ペダルとして使用できるようになります。

Pitch - ピッチ

設定レンジ：0 ～ 100%

Range で設定したピッチ変更幅に対する比率を指定します。ペダルを使用する場合は、ペダルの位置によってこのパラメーターがリアルタイムで調節されます。

Dir (Direction) - 方向

設定レンジ：Down / Up

ペダルを踏み込んだ時にピッチを上げるか下げるかを設定します。デフォルトは、トーン・ダウンの状態ではピッチが上がる Up の設定です。

Range - レンジ

設定レンジ：1 Oct / 2 Oct

音程変更の上下幅を指定します。極端な効果には 2-Oct を、一般的なワーミー効果には 1-Oct を選択します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Detune - ディチューン

ディチューンは、指定したセント数だけ音程をずらします（100 セント = 1 半音）。効果はコーラスに近いものですが、大きな違いは、ディチューンの場合はその量が一定であることです。ディチューン・アルゴリズムは 2 つのヴォイスを搭載します。サウンドが「直接的」過ぎると感じる時は、たとえば Voice L に +2 セント、Voice R に -3 セント、といった具合に、設定値を数セントずつずらしてみてください。

Voice L - ヴォイス L

設定レンジ：-100 ～ 100（セント）

ヴォイス L のディチューン量を指定します。

Voice R - ヴォイス R

設定レンジ：-100 ～ 100（セント）

ヴォイス R のディチューン量を指定します。

Dly 1 - ディレイ 1

設定レンジ：0 ～ 350ms

ヴォイス L に与えるディレイの量を指定します。

Dly 2 - ディレイ 2

設定レンジ：0 ～ 350ms

ヴォイス R に与えるディレイの量を指定します。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ～ 100%

ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

Intelligent Pitch Shifter - インテリジェント・ピッチ・シフター

G-System のインテリジェント・ピッチシフターは 2 ヴォイスの構成で、あらゆるキーで様々なスケールを使用可能です。ヴォイスのレンジは、上下それぞれ 13 スケール・ステップで、これは音程に換算すると上下 1 オクターブを超えたダイアトニック 6th となります。

Key - キー

インテリジェント・ピッチシフターが正しいヴォイスングを行うには、演奏するキーを指定する必要があります。キーは、次の中から選択できます：
C / C# / D / D# / E / F / F# / G / G# / A / A# / B。

Scale - スケール

演奏するスケールを指定します。次のスケールが選択できます：

ラベル	フルネーム	スケール・ステップ
Ionian	Ionian - イオニアン	1,2,3,4,5,6,7
Dorian	Dorian - ドリアン	1,2,b3,4,5,6,b7
Phrygi	Phrygian - フリジアン	1,b2,b3,4,5,b6,b7
Lydian	Lydian - リディアン	1,2,3,#4,5,6,7
Mixoly	Mixolydian - ミクソリディアン	1,2,3,4,5,6,b7
Aeolia	Aeolian - エオリアン	1,2,b3,4,5,b6,b7
Locria	Locrian - ロクリアン	1,b2,b3,4,b5,b6,b7
PntMin	Pentatonic minor - ペンタトニック・マイナー	1,b3,4,5,b7
PntMaj	Pentatonic major - ペンタトニック・メジャー	1,2,3,5,6
Blues	Blues - ブルーズ	1,b3,4,b5,5,b7
DimHlf	Diminished half - ディミニッシュ・ハーフ	1,b2,b3,3,b5,5,6,b7
DimWhl	Diminished whole - ディミニッシュ・ホール	1,2,b3,4,b5,b6,6,7
Whole	Wholetone - ホールトーン	1,2,3,#4,#5,b7
MelMin	Melodic minor - メロディック・マイナー	1,2,b3,4,5,6,7
HrmMin	Harmonic minor - ハーモニック・マイナー	1,2,b3,4,5,b6,7
SupLoc	Super Locrian - スーパー・ロクリアン	1,b2,b3,b4,b5,b6,b7
Lyd b7	Lydian b7 - ロクリアン b7	1,2,3,#4,5,6,b7
PhryMa	Phrygian major - フリジアン・メジャー	1,b2,3,4,5,b6,b7

Voice 1-2 - ヴォイス 1-2

設定レンジ：-13 ~ Unison (ユニゾン) ~ 13
インテリジェント・ピッチシフターは、選択したスケールで 2 つのヴォイスを追加できます。演奏されている音程と、選択したスケールタイプ及びキーに応じて、正しいインターバルが自動的に計算されます。

Level 1-2 - レベル 1-2

設定レンジ：-100 ~ 0 dB
各ヴォイスのレベルを独立して調節できます。

Pan Position 1-2 - パン・ポジション 1-2

設定レンジ：± 50
各ヴォイスのパンニング・ポジションを独立して調節できます。0 がセンターとなります。ヴォイスをパンニングすることによって、よりワイドなサウンドが得られます。

Delay 1-2 - ディレイ 1-2

設定レンジ：0 ~ 50 ms
二人のギタリストが同時に演奏している場合、タイミングが完全に一致することはあり得ず、若干のズレが生じます。ハーモニー・ヴォイスに対して若干のディレイを加えることで、その効果をシミュレートできます。わずか 10 ~ 20 ms 程度のディレイで、ナチュラル且つスムーズな効果が得られます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%
ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ~ 0dB
このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On
エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

DELAY - ディレイ

概要

G-System は、標準的なディレイ・タイプに加えて斬新な効果を得られるいくつかの特殊タイプを搭載しており、ディレイが必要となるあらゆる場面に応えます。

- | | |
|-----------------|-------------|
| • Single Delay | シングル・ディレイ |
| • Tape Delay | テープ・ディレイ |
| • Reverse | リバース |
| • Lo-Fi | ローファイ |
| • Ping Pong | ピンポン |
| • Dynamic Delay | ダイナミック・ディレイ |
| • Dual Delay | デュアル・ディレイ |

ディレイは全てスビルオーバー機能を搭載しており、プリセットを変更した際に音が途切れません。ディレイのテンポはグローバル・テンポを適用するか、MIDI クロックに同期させることができます。

ディレイの共通パラメーター

次のパラメーターは、ディレイ・タイプ全てに共通しています。特定のタイプに固有のパラメーターは、それぞれのディレイ・タイプのセクションで解説します。

Delay - ディレイ・タイム

レンジ：0 ~ 1800 ms

ディレイ成分の間隔を指定します。

Tempo - テンポ

設定レンジ：Ignore（無視）／2 ~ 1/32T

2 から 1/32T の設定では、グローバル・テンポとの関係を、音符の表記で決定します。「T」は 3 連符、「D」は符点音符を示します。Ignore の設定では、Speed パラメーターの設定を適用します。



UTILITY メニューの Tap Master パラメーターで、プリセット変更時にグローバル・テンポとプリセットの Speed パラメーターのいずれを適用するかを指定できます。

Fb (Feedback) - フィードバック

設定レンジ：0 ~ 120%

エフェクトの出力から入力に循環させる信号の量を設定し、反復する成分の量を指定します。

100% 以上の値では内部フィードバックが生じますので、高い設定値にはお気を付けください。G-System ではディレイのスビルオーバー機能を搭載しているため、内部フィードバックが生じた際に一度ディレイを OFF にしただけではフィードバックは消えません。ここでの設定を 100% 以下に落とすのが一番直接的な解決法ですが、2 度連続してディレイ・タイプを変更するか、ディレイを使用している他のプリセットに 2 度連続して切り替える方法もございます。

FbICut (Feedback LoCut) - フィードバック・ローカット

設定レンジ：20 Hz ~ 20 kHz

指定周波数を下回る周波数のレベルを落とします。Feedback HiCut パラメーターと同様、エフェクトのローエンドを削ぐことによって、ディレイ成分をより馴染みのよいサウンドに仕立て上げることができる場合があります。

FbHCut (Feedback HiCut) - フィードバック・ハイカット

設定レンジ：20 Hz ~ 20 kHz

最新のデジタル技術は、極めて正確な音声の再現を可能とし、ディレイ効果における反復成分なども極めて高音質で行えるようになりました。しかし、原音に忠実なディレイは、その忠実さ故に原音を邪魔してしまう場合があります。

FbHCut は、指定周波数を超える周波数のレベルをアッテネートします。ディレイのハイを落とすことによってアナログ・ライクなサウンドが得られ、多くの場面で、より馴染みのよいサウンドに仕立て上げることができます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ~ 100%

ドライ（ダイレクト）音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100 ~ 0 dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

エフェクト DELAY - ディレイ

Single Delay - シングル・ディレイ

シングル・ディレイは、G-System のディレイで最も基本的かつシンプルなタイプです。

共通パラメーターのみ

シングル・ディレイのパラメーターは「ディレイの共通パラメーター」セクションをご参照ください。

Tape Delay - テープ・ディレイ

往年のテープ式ディレイ機のサウンドをシミュレートします。フィードバックを 100% 以上に設定した場合に得られるクリップ時のサウンドも再現しています。ハイカットとローカット・フィルターを積極的に活用し、高めのフィードバック設定でご使用ください。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメーター」セクションの内容に加えて、次の追加パラメーターが用意されています。

Drive - ドライブ

設定レンジ：0 ~ 24 dB

高域の信号ロスと合わせて、歴史的なテープ・ディレイの主な特徴といえる、テープ式ディレイのクリッピング時に生じる音の劣化をシミュレートします。

Reverse - リバース

リバース・ディレイは、エキゾチックでミステリアスなディレイ・スタイルに適しています。FbhCut パラメーターで音を和らげることができます。

このディレイ・タイプのディレイ・タイムは、50ms ~ 800ms のレンジを持ちます。

共通パラメーターのみ

リバース・ディレイのパラメーターは「ディレイの共通パラメーター」セクションをご参照ください。

Lo-Fi - ローファイ

ローファイ・ディレイは、目立つディレイ効果を得られます。ローファイ・サウンドを好みに整えるには、FblCut 及び FbhCut、そして Clip パラメーターを様々な値でお試してください。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメーター」セクションの内容に加えて、次の追加パラメーターが用意されています。

Drive - ドライブ

設定レンジ：0 ~ 24 dB

Clip パラメーターの値が高い程、反復するディレイ音が歪みます。このエフェクトがシミュレートするクリッピングは、アナログ・ライクな特性を持っています。

Ping Pong - ピンポン

ピンポン・ディレイは、ディレイの反復成分を左右にパンニングし、ステレオ感を強調します。Width パラメーターで、エフェクトのステレオ感を調節できます。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメーター」セクションの内容に加えて、次の追加パラメーターが用意されています。

Width - ワイズ（幅）

設定レンジ：0 ~ 100 %

ディレイの反復成分がセンターからどれだけ左右に振られるかを指定します。

Dynamic Delay - ダイナミック・ディレイ

ダイナミック・ディレイは名機 TC2290 で初めて搭載された機能で、入力レベルのダイナミクスをディレイの出力レベルに連動させます。演奏中は原音をクリアに聞かせ、演奏していない時点でディレイ成分をより明確に聞かせることができます。Sense パラメーターで、ディレイが再浮上する特性を指定できます。Offset パラメーターで、ステレオ・イメージを広げることができます。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメーター」セクションの内容に加えて、次の追加パラメーターが用意されています。

Offset - オフセット

設定レンジ：0 ～ 200 ms

右チャンネルのディレイ成分のタイムをオフセットします。左右チャンネルのディレイ・タイムは、異なる方がよりワイドなディレイ効果を得られます。数ミリ秒でワイド感が得られ、それ以上の設定では、スラップバック効果や、より極端な効果が得られます。

Sense (Sensitivity) - センシティビティ（感度）

設定レンジ：-50 ～ 0 dB

入力信号のレベルと連動してどの時点でディレイの反復成分を聴こえる様にするかを指定します。ギター信号とディレイ成分のスレッシュホールドと解釈することができます。

Damp - ダンピング

設定レンジ：0 ～ 100 dB

概要で説明されている通り、ダイナミック・ディレイは入力レベルに連動してディレイの反復成分のレベルを調節します。Damp は、信号をアッテネートする強さを設定します。

Release - リリース

設定レンジ：20 ～ 1000 ms

ダイナミック・ディレイによるアッテネーションが終了する際にかかる時間を設定します。

Dual Delay - デュアル・ディレイ

デュアル・ディレイは、2 つの独立したディレイを同時に作動させます。それぞれ独立してテンポ、ハイ/ローカット、パンを指定できます。

このディレイ・タイプでは、「ディレイの共通パラメーター」セクションの内容に加えて、次の追加パラメーターが用意されています。

Pan 1 & Pan 2 - パン 1 & パン 2

設定レンジ：-50 ～ 50

各ディレイ・ラインのパンニング位置を指定します。マイナスの値は左、プラスは右です。

エフェクト REVERB - リバーブ

REVERB - リバーブ

概要

リバーブは、残響を生成します。G-System では、4 種類のクラシックなリバーブを搭載しています。それぞれは共通のパラメーターを持ちますが、同じ設定でも得られる特性は異なります。

Spring - スプリング

ヴィンテージのギターアンプなどに内蔵される、往年のスプリング・リバーブのサウンドを再現します。

Hall - ホール

比較的大きいホールを想定し、ナチュラルな音響特性を念頭にデザインされています。中間から長めのディケイタイムを要求する素材に優れた適応性を発揮する、汎用性の高いリバーブです。

Room - ルーム

内装された比較的小さい部屋を想定しています。多くの反射は内装の柔らかい素材により吸収され、音の反射と残響の持続は壁面が主成分となります。

Plate - プレート

デジタル世代以前のリバーブ機は、反響するスプリングか大きな鉄板を用いてリバーブの効果を生成していました。鉄板を使用した機器はプレート・リバーブと呼ばれ、拡散的でブライトな音を特徴としています。ナチュラルに溶け込む音ではなく、エフェクトを目立たせる用途に適しています。

これらの解説は、目的に応じてリバーブの種類を選ぶ際の目安としてご使用ください。「リバーブ」と一言でくくってもサウンドは幅広いため、実験する際には、様々なタイプで各種の設定をお試しいただくことをお勧めいたします。

リバーブの共通パラメーター

Decay - ディケイ

設定レンジ：0.1 ～ 20 sec

余韻の減衰時間を指定します。この時間は、リバーブ・テール（余韻成分）がおおよそ 60dB 減衰する時間として定義されます。

PreDly (Pre Delay) - プリディレイ

設定レンジ：0 ～ 100 ms

原音とリバーブ・テールの間に挿入される短いディレイです。リバーブ音が原音の輪郭を損なわない様に原音とリバーブを分離させる効果が得られます。

Shape - シェイプ

設定レンジ：Round / Curved / Square

空間の形状です。

Size - サイズ

設定レンジ：Box / Tiny / Small / Med / Large / XL / Grand / Huge

ディケイ・タイムは全てのリバーブ・タイプで 0.1 から 20 秒まで設定できますが、このパラメーターで空間の全体的な大きさを指定できます。よりリアルな余韻の長い大きい空間を得るには、ここでの設定を Large 以上にしてください。同様に、それよりも小さい空間を得るには、Medium 以下を選択します。

しかしながら、求めるサウンドが必ずしもリアルな効果を必要としているとは限りません。意図的に逆の設定を行なうことによって効果的なサウンドを得られるかもしれません。

Hi Col (High Color) & Lo Col (Low Color) -ハイ/ロー・カラー

設定レンジ：Hi Col - Wool / Warm / Real / Clear / Bright / Crisp / Glass
Lo Col - Thick / Round / Real / Light / Tight / Thin / NoBass

ローとハイの成分において、異なるカラーのリバーブが得られます。ダークでアンビエントな効果からブライトなものまで、設定によってリバーブの特性が大幅に変化します。

エフェクト REVERB & EQ - リバーブ & EQ

Hi Lev (High Level) & Lo Lev (Low Level) - ハイ／ロー・レベル

設定レンジ：-25 ～ 25

選択した Hi Color と Lo Color タイプの特徴を強調またはアッテネートします。

Early - アーリー (初期反射レベル)

設定レンジ：-100 ～ 0 dB

リバーブの初期反射音のレベルを指定します。

RevLev (Reverb Level) - リバーブ・レベル

設定レンジ：-100 ～ 0 dB

リバーブの余韻成分のレベルを指定します。

Diff (Diffuse) - ディフュージョン (拡散)

設定レンジ：-25 ～ 25

リバーブの余韻成分の密度を調節します。ディケイ・タイムを指定すると自動的に設定され、余韻のフラッターを最小限に抑えます。

Mix - ミックス

設定レンジ：0 ～ 100%

ドライ (ダイレクト) 音とエフェクト音のミックス・バランスを決定します。

OutLev - 出力レベル

設定レンジ：-100dB ～ 0dB

このエフェクトの全体的な出力レベルを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

EQ - パラメトリック EQ

概要

G-System は、3 バンド・パラメトリック・イコライザーを搭載しています。UTILITY メニューの Lock Mode パラメーターの設定により、エフェクトとしてプリセット毎に異なる設定を使用するか、マスター EQ として全てのプリセットで共通の設定を使用するかを選択できます。

バンド毎に、次のパラメーターが用意されています。

Gain - ゲイン

設定レンジ：-12 ～ 12 dB

選択されているバンドのブースト／カット量を指定します。

Freq - フリークвенシー (周波数)

設定レンジ：20 Hz ～ 20 kHz

選択されているバンドで、アッテネートまたはブーストしたい周波数を指定します。

Width - ワイズ (幅)

設定レンジ：0.1 ～ 4.0 oct.

Freq で指定した周波数を中心にして、どれだけの幅で EQ を施すかを指定します。

Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

エフェクトの ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

エフェクト NOISE GATE - ノイズゲート

NOISE GATE - ノイズゲート

概要

ノイズゲートは、一般に、ギターを演奏しない時に信号を減衰させる目的で使用されます。それによって、自身のシステム中に発生するヒス（高域の雑音）やハム（低いうなり音）などの雑音を落とすことができます。

しかしながら、これは、雑音問題の根本的な解決につながる訳ではありません。まずは、雑音の発生を極力防止することが必要です。雑音の発生要因は様々です。一般的なノイズ源としては、品質の低いケーブル、シールドが不十分なシングルコイル・ピックアップ、信号ケーブルの近くにある AC アダプターなどがあり、これらを原因とするノイズは試行錯誤によって多く回避できます。

どのようなギターのセットアップにも、多少のノイズは常在します。一般的には、演奏している音のレベルに関わらず、ノイズのレベルは一定なため、ノイズの相対的なレベルは楽器を演奏していない時が一番高くなります。ノイズゲートは、演奏していないときの雑音を減少させることに役立ちます。ただし、スレッシュホールド（しきい値）とリリース・レートを設定する時には注意が必要です。スレッシュホールドが高すぎると、たとえばギターを静かに弾いたときにゲートが開かなくなります。また、リリース・タイムが遅すぎると、アタックがカットされてしまい、不自然な音になってしまいます。

最適な設定値は G-System に入力する信号によって異なります。通常、クリーンな音とオーバードライブされた音とは、異なる設定が必要です。

Mode - モード

設定レンジ：Hard / Soft

ノイズゲートの基本的な特性を指定します。信号がスレッシュホールドを下回ったときにノイズゲートが信号を減衰させる速度を指定します。

Thres (Threshold) - スレッシュホールド

設定レンジ：-60 ~ 0 dB

ノイズゲートが信号の減衰を開始するレベルを指定します。このパラメーターを設定するには、演奏していない状態で、ギターのボリュームツマミを上げていきます。続いて、Thres を -60dB から所望の減衰開始値まで上げます。このとき、Damp パラメーターは 0dB 以外であることが必要です。

Damp - 最大ダンピング値

設定レンジ：0 ~ 90 dB

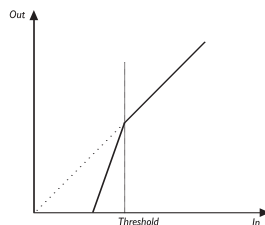
信号がスレッシュホールドを下回ったときに信号をアッテネートする強さを設定します。最大の減衰量が常に適切であると解釈することも可能ですが、ゲートの作動 / 非作動時切り替えがスムーズであることも重要です。強い音を発生させなければならないときほど、ノイズゲートの境界は明確になります。普遍的な設定値がいつも存在するとは限らないため、それぞれの音について試行錯誤することが必要です。

Speed (Release Speed) - リリース速度

設定レンジ：3 dB/sec ~ 200 dB/sec

信号が入力信号がスレッシュホールドを超えた時に信号がリリースされる速さを設定します。原則として、このパラメーターは高めの設定でご使用ください。

図



Enable - エンネーブル

設定レンジ：Off / On

ON / OFF の状態を示します。OFF の状態でも、エフェクトの設定はプリセットの一部として保存されます。

付録 MIDI インプレメンテーション・チャート

MIDI Implementation Chart for G-System – Version 1.0

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default	1	1	
	Changed	1 to 16	1 to 16	
Mode	Default			
	Messages	X	X	
Note Number	Altered			
		X	X	
Velocity	True Voice	X	X	
	Note ON	X	X	
After Touch	Note OFF	X	X	
	Key	X	O	
Pitch Bend	Channel	X	X	
		X	O	
Control Change		0 to 127	0 to 127	
Prog Change		O	O	
	True#	0 to 127	0 to 127	
System Exclusive		O	O	
Common:	Song Pos	X	X	
	Song Sel	X	X	
	Tune	X	X	
System real time:	Clock	O	O	
	Commands	X	X	
Aux Messages:	Local ON/OFF	X	X	
	All Notes OFF	X	X	
	Active Sense	X	X	
	Reset	X	X	
Notes				

O: YES

X: NO

付録 FAQ - よくある質問

Q: 出力が得られません。

特定のユーザー・プリセットで、入力メーターが上がっているにも関わらず、出力が得られません。

A:

インサート・ループに何も接続されていないのにも関わらず Insert Loop が「ON」になっている可能性があります。Insert Loop を「OFF」にしてください。

Q: G-System をコンボ・アンプに直接接続できますか？

G-System の出力をプリアンプを経由させずコンボ・アンプに直接入力できますか？

A:

アンプを「パワー・アンプ」として使用するのであれば、可能です。コンボのドライブを使用したい場合は、コンボ・アンプのプリアンプ・セクションを G-System のインサート・ループ（ループ 5）に接続することにより、G-System のポスト・エフェクトをフルに活用できます。

Q: 入力レベルはどうやって調節するのですか？

入力レベルを適切に設定するための手順というのがありますか？メーターをクリップさせていいのですか？

A:

内部 DSP をオーバーロードさせてしまうのを防ぐために、若干のヘッドルーム（約 3dB）は確保しておくべきです。

入力レベルに関わらず、エフェクトの設定で信号をブーストし過ぎてしまうと、DSP オーバーロードはどの段階でも起こり得ます。内部で過度のブーストを行うと、入力レベルに余裕がある場合でも、LED が点灯することがあります。

DSP のオーバーロードは、避けるべきです。アナログ機器のオーバーロードはサウンドをウォームにするハーモニック・ディストーションを生成することがあります。デジタル機器のオーバーロードは、音を劣化させるだけで、耳障りなノイズを生じさせるだけです。

Q: グローバル・バイパスの方法

どうやってバイパスできますか？

A:

G-System にはグローバル・バイパスのパラメーターは装備されていませんが、空のプリセットをカスタマイズ可能なスイッチに任意にアサインできます。ファクトリー・プリセット B9-5 は「オール・バイパス」のプリセットです。

Q: 複数台の GFX01 のコントロール

G-System のコントロールボード一台のから複数の GFX01 をコントロールできますか？

A:

できません。コントロールボードは、一つにつき一台の GFX01 しかコントロールできません。MIDI 経由で G-System から他の MIDI 機器に特定の MIDI メッセージを送信することは可能です。

弊社のオンライン・サポート・データベース TC Support Interactive (www.tcelectronic.com、英語のみ) では、お問い合わせの多い質問に対するご返答を公開しております。



付録 プリセット・リスト

MIDI#	バンク	プリセット	プリセット名	MIDI#	バンク	プリセット	プリセット名
0	A0	1	Scotty's Blues	35	A7	1	Pure Liverpool
1		2	Sheryls Detune	36		2	Reverberated
2		3	So Scho	37		3	Vintage Phaser
3		4	Gillmore's Delays	38		4	Filtered Rockabilly
4		5	Light Detune	39		5	Phasing The Facts
5	A1	1	Lofi Delay	40	A8	1	70's Tape Flange
6		2	Echo Filters	41		2	Slow Modulation
7		3	TouchWah Verb	42		3	Tremo Vibe
8		4	Filtered Tape Delay	43		4	Resonance Vibration
9		5	Straight Up Lead	44		5	Natural Vibration
10	A2	1	Auto Wah	45	A9	1	Bluebox Echo's
11		2	TouchWah	46		2	Who Said Skysaw?
12		3	80's Hall of Fame	47		3	Sus4 DreamVerb
13		4	Auto Formant	48		4	Sus4 Taped Up
14		5	Straight Wah wah	49		5	Rise and Shine
15	A3	1	Soft Tremolo	50	B0	1	Simply Chorus
16		2	Filtered Chopper	51		2	Slow Flange
17		3	Tremo Oct	52		3	Vibra Room
18		4	Machine Gun AI	53		4	Message in a Bottle
19		5	Comp'ed Tremolo	54		5	Gold Plate
20	A4	1	All But Lee	55	B1	1	Chicken Dance
21		2	Shadows Of Mr Marvin	56		2	Funky Music Verb
22		3	Chet A's Own	57		3	Play That Funk Music
23		4	Mr. Montgomery Lead	58		4	Clean Cowboy
24		5	Slapback	59		5	Chicken Picking
25	A5	1	Right On The Edge	60	B2	1	Reso Tremolo
26		2	Dynamic Delay	61		2	Funky Filters Revers
27		3	Comp'ed Dual Delay	62		3	Pie In The Sky
28		4	Add Fuzz & Its There	63		4	Whammy 2 Oct Up
29		5	Reversed Phase Dly	64		5	Whammy 1 Oct Down
30	A6	1	Deep Bass	65	B3	1	Clean Comp
31		2	Deep Canny Bass	66		2	Slow Release Comp
32		3	Funky Octaver	67		3	Clean Picking Comp
33		4	Octa Comp	68		4	Clean Comped Plate
34		5	Synthized	69		5	Sustaining Comp

付録 プリセット・リスト

MIDI#	バンク	プリセット	プリセット名
70	B4	1	Phase Off
71		2	Talk the Talk
72		3	Funky Thang
73		4	Straight Octaver
74		5	LoFi Filters
75	B5	1	T Petty Chorus
76		2	Bluesey Lead
77		3	Vibra Wah
78		4	Stuck In the Middle
79		5	Funky Chorus Rhythm
80	B6	1	Subtle Acoustic
81		2	Acoustic Detune
82		3	Vibrato - Sweet
83		4	Soft Vibrato
84		5	Sustained Chorus
85	B7	1	Jazz Ballad
86		2	And All That Jazz
87		3	Blues Room
88		4	The Good, Bad & Ugly
89		5	Telephone Delays
90	B8	1	Clean Chorus Verb
91		2	Rockabilly Slap
92		3	Rock Spring
93		4	Reverb & Delays
94		5	Guitar Hero
95	B9	1	Distant Vibrato
96		2	Ping Pong pong pong
97		3	Slow Hi Range Phase
98		4	Double Filters
99		5	All Bypassed

INSTRUMENT 入力

コネクター	1/4"フォーンジャック（疑似バランス）× 2
インピーダンス	1 Mohm
最大入力レベル	18 dBu
0dBFS 到達レベル	最小: -6 dBu
感度	-6dBu ～ +18 dBu

LOOP 1-4

コネクター	1/4"フォーンジャック × 2、4 系統
入出力インピーダンス	91 kOhm / 100 Ohm
最大出力レベル	12 dBu
出力レンジ	6 ～ 10 dBu

INSERT

コネクター	1/4"フォーンジャック × 2
入出力インピーダンス	24 kOhm (バランス 35 kOhm) / 100 Ohm (バランス 200 Ohm)
最大出力レベル	12 dBu
出力レンジ	6 ～ 10 dBu

アナログ出力 (L/R)

コネクター	1/4"フォーンジャック × 2
インピーダンス	100 Ohm (バランス 200 Ohm)
最大出力レベル	12 dBu
出力レンジ	0 ～ 10 dBu

デジタル出力

コネクター	RCA フォーン (S/PDIF)
フォーマット	S/PDIF (24 ビット)、EIAJ CP-340、 IEC 958、75 Ohm
サンプリングレート	44.1 kHz

システム性能

周波数特性	typ.: 20 Hz ～ 20 kHz、+0.0 / -0.4 dB
ダイナミックレンジ	typ.: > 95 dB、20Hz ～ 22kHz、0dBFS
THD	typ.: < -80 dB、20Hz ～ 22kHz、-1dBFS
A/D 変換	24 ビット、128 x オーバーサンプリング・ビットス トリーム、DSR
D/A 変換	24 ビット、128 x オーバーサンプリング・ビットス トリーム、DSR

EMC

準拠規格	EN 55103-1 and EN 55103-2 FCC part 15, Class B, CISPR 22, Class B
------	--

安全

準拠規格	IEC 60065 / EN 60065/ UL 60065 / CSA E60065
------	--

環境

動作環境温度	0° C ～ 50° C
保存環境温度	-30° C ～ 70° C
湿度	最大 90 %（結露状態を除く）

コントロール端子

MIDI	In/Out: 5 ピン DIN
USB	USB 1.1、タイプ B
ペダル (Exp.及び Vol)	4 × 1/4 インチステレオフォーンジャック (GFX01 に 2 つ、コントロールボードに 2 つ)

リレー（チップとリングのスリーブ
に対する接続は独立）

4 リレー（2 × 1/4 インチステレオフォーン
ジャック）、アンプ・スイッチング用

その他

DC 出力	4 × 9VDC 出力、計 200mA、 シールド (+) / ピン (-)
-------	---

一般

仕上げ	アノダイズド・アルミニウム・フロント プレート及びペイント・スチール・シャーシ
ディスプレイ	2 × 20 キャラクター STN-LCD ディスプレイ + 20 × 7 ドット・マトリクス
フットスイッチ	18 × 点灯型フットスイッチ (内 6 つはロータリー・エンコーダー内蔵)
寸法	512.9mm × 265.9mm × 103.4mm
重量	7.83 kg
電源電圧	100 ～ 240 VAC、50 / 60 Hz（自動選択）
消費電力	<20 W
製品保証	EU 規定準拠

製品の改良のため、仕様は予告なく変更となる場合がございます。